

# ALSOK REPORT

## 2022

[2022年3月期]

ALSOKは、創業者の村井順が、1964年の東京オリンピックの運営を担当したことをきっかけに、日本における警備会社の必要性を強く感じ、日本の安全は日本人が守るという思いから、翌年の1965年に誕生しました。

創業時の理念「**ありがとうの心**」と「**武士の精神**」を経営の基本精神に掲げ、お客様と社会の安全の確保のため私たちは日々努力してまいりました。この精神は、全従業員に脈々と受け継がれ、今日にいたるまでALSOKグループ全体でその理想を追求し続けています。

## 綜警憲章

### 経営理念

我が社は、  
**「ありがとうの心」<sup>※1</sup>と「武士の精神」<sup>※2</sup>**をもって社業を推進し、  
お客様と社会の安全・安心の確保のために最善を尽くす。

### 経営指針

#### 1. 経営の基本精神

何事にも、常に感謝の心を忘れない「ありがとうの心」と、  
強く、正しく、温かい、「武士の精神」をもって取り組むとともに、社徳のある会社を確立する。

#### 2. 経営の優先順位

お客様に対して最高のサービス・商品を提供することを最優先とし、  
併せて社員にとって働きがいのある会社の実現に努めるとともに、収益の拡大を通じて株主の期待に応える。

#### 3. 経営の基本戦略

常に変化する時代のニーズに適うべく、  
警備業を中核としつつ、新たな分野におけるサービス・商品を幅広く提供する。

#### 4. 社会・公共への貢献

安全・安心に関する公の施策に協力し、社会の発展に貢献するサービスの展開と商品の開発を行う。

### 行動規範

1. 我々は、常に「**ありがとうの心**」を基本におき、お客様へのサービスに誠心誠意、最善を尽くします。
2. 我々は、強く、正しく、温かい、「**武士の精神**」を体現し、いかなる困難にも正々堂々と立ち向かい、一丸となって目標を達成します。
3. 我々は、独立自尊の「**野鳥精神**」をもって、自ら考えて仕事に取り組み、自らの責任で必ず成果を出します。
4. 我々は、「**誠実、正確、強力、迅速**」をモットーに行動します。
5. 我々は、現状に甘んじることなく、仕事の質の向上と収益の拡大に向けて常に**変革**を求め、**挑戦**し続けます。
6. 我々は、真のリーディングカンパニーにふさわしい人材となるべく、**コンプライアンスの意識を高く持つ**とともに、日々、自己研さんに努めます。

(2015年7月改定)

※1 人間はこの社会でお互いに生かされて生かされているものであり、自分を取り巻くすべてのものに対し、謙虚にありたいと思う感謝のこころ。

※2 常に「秩序正しく、計画的に堂々と勝ち抜き、発展を図る」という精神。





# CONTENTS ALSOK REPORT 2022

## Overview・Vision

- 00 ALSOKの経営理念
- 02 トップメッセージ
- 08 ALSOKの価値創造の歩み
- 10 財務・非財務ハイライト
- 12 各事業の紹介
- 16 ALSOKの商品・サービス一覧
- 18 ALSOKの価値創造モデル
- 20 ALSOKの強み／ALSOKの4つのモットー
- 22 ALSOKの新商品・サービス
- 24 品質向上への取り組み
- 26 事業活動を通じた社会課題の解決

## サステナビリティ・ESG

- 30 サステナビリティ・CSRマネジメント
- 33 サプライチェーンマネジメント
- 34 人材価値の向上・働きやすい職場環境づくり
- 37 地域社会貢献活動
- 38 地球環境への配慮
- 40 コーポレート・ガバナンス
- 44 取締役、監査役および執行役員

## Financial Information

- 48 財務セクション
- 53 会社情報／株式情報／編集方針



## トップメッセージ



村井 豪

代表取締役 グループCEO兼  
CTO(最高技術責任者)



栢木 伊久二

代表取締役 グループCOO

# ALSOKグループの新たな可能性を追求する

2022年6月、ALSOKは、新たな経営体制に移行しました。東京2020大会が終わり、事業環境が大きく変化しつつある中で、グループCEOの村井とグループCOOの栢木が語ります。

Theme1

## 経営トップに就任して思うこと

### 創業の精神を受け継ぎ、次の成長につなげる

**村井:** 2022年6月、私がグループCEOに、また栢木がグループCOOに就任することとなりました。基本的には私がALSOKグループ全般の基本的な経営の方針を示すとともに、栢木が社長執行役員としてグループを含めた業務執行の責任を担うこととなりますが、栢木とは二人三脚で、お互いの意見をぶつけ合い、しっかりコミュニケーションを図りながらALSOKをリードしていきます。

ALSOKの創業は1965年であり、これまで57年の年月を重ねてきました。1964年の東京オリンピック(64年大会)の運営を担当した創業者の村井 順が、その経験をもって日本における警備会社の必要性を痛感し、その翌年の1965年に創業してい

ます。64年大会は安全な大会でしたが、主にそれを担ったのは警察と学生ボランティアで、当時、警備会社の存在感はまだまだ小さなものでした。その57年後に開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会(東京2020大会)は、当時を思うと隔世の感がありました。大会期間中に延べ50万人を超える警備員を配備し、警備を徹底した結果、大会運営を脅かすような重大事案を一つも発生させず、安全な大会にすることができました。そこにはALSOKをはじめとする警備会社の懸命な努力があり、それが誰の目から見ても明らかに映ったことと思います。私は57年の月日を経て日本の警備業、そしてALSOKが一つの産業として認められ、社会に貢献できる存在となったことをあらためて実感しました。東京2020大会はALSOKとしても、





また警備業界全体としても、ここまでの信頼を寄せていただけたようになった社会に対して恩返しをさせていただく良い機会になったと感じています。

57年に及ぶALSOKの成長は、創業の精神を大切に育んできた結果として得られたものと理解しています。その意味では先人が築き上げたものを受け継ぎ、これからも歩みを緩めず、社会からより一層必要とされる会社となるよう、さらに事業を発展させていきたいと思えます。

足もとの社会に目を向けると、コロナ禍や地政学的なリスクの高まりなど、世界全体が先行きを見通すことが困難な、不確実性の高い時代を迎えています。警察庁がまとめる刑法犯認知件数は20年前と比べて大幅に減少しており、国内の治安情勢については明らかに改善しているのですが、治安が「悪くなっている」「良くなっていない」と感じる人の数は改善していません。治安情勢が改善しているからといって警備のニーズが減ることも、これまでの警備の手を緩めることも考えられません。安全・安心に対する不安の解消ニーズがある限り、ALSOKが活躍できる余地は今後も増え続けていくと思えます。

また、最近ではコロナ禍の中で、対面でのコミュニケーションに加えてリモートによるコミュニケーションも増え、経済活動にも厚みが増しています。ALSOKは以前から、業務の性質上、ラストワンマイルとも言うべき現場での課題解決に向き合い、事業を拡大させてきました。今日のような、リモートによる経済活動が市民権を得る時代において、私たちのような、対面での課題解決を行うエッセンシャルなビジネスへの期待というものは、むしろ高まっていくのではないかと考えています。具体的には、リアルな接点として、警備サービスだけでなく、さまざまなサービスの提供ニーズも増えています。こうした点も含め、私たちが社会に対して貢献できる機会はさらに増えていくものと考えており、こうした事業機会をしっかりと捉え、今後の成長に結び付けていく考えです。

※1: 警備以外の設備機器の点検・メンテナンス作業等の代行業務

## 40年間養ってきた現場感覚を活かし、 今後の成長に結び付ける

栢木: 私はプロパーの社員として初めてALSOKの社長に就任し、決意を新たにしています。グループを含めた業務執行の統括責任者として、村井とは意思疎通を十分に行いながら経営者としてのベクトルをしっかりと合わせ、今後の成長に向けて挑戦していく考えです。

私がALSOKに入社したのは1982年のことです。入社以来、営業畑で過ごしてきました。こうした経験を活かし、2016年の取締役就任後も、多くの社員と対話するとともに、またお客さまとはさまざまな場面でご意見を承りながら、現場の掌握に努めてきました。社長就任後も、これまで同様、40年間養ってきた現場感覚を活かし、お客様の課題解決にしっかりと向き合い、今後の成長に結び付けます。また、先代の会長、社長が築いてきた事業基盤をさらに発展させ、M&Aを活用しつつグループの収益力を高め、今後さらに強固なものにしていくことも、私に課せられたミッションであると認識しています。

これまで築いてきた24時間365日、監視そしてかけつけ可能な全国ネットワークを活用し、警備以外のサービスを総合的に提供していく「マルチ・エンジニアリング※1」の取り組みについても推進していく考えです。

また、ALSOKは国内の警備業務を担う大手警備会社として、日本のセキュリティ品質の高さを世界にアピールしていく責務があるとも考えています。昨年の東京2020大会では、確かに安全・安心な日本をアピールすることができましたが、2022年7月、選挙応援演説中に起きた元首相の銃撃事件を受けて、世界一安全な日本の治安に対する信頼が揺らいでいることも事実です。ALSOKにおいても、イベント警備において、セキュリティのプランニング強化やDXを駆使したシステムの導入などが必要だと考えています。



# トップメッセージ



## 中期経営計画(GD2025)の進捗と今後の展望

### 前期の振り返り

**栢木:** 2021年度を初年度とする5カ年の中期経営計画「Grand Design 2025」(中計)については、新体制後も引き続き注力します。この計画は、リスクが多様化する社会の中で、拡大する安全・安心ニーズに対応すべくビジネスモデルを変革するため、4つの基本方針「お客様と社会の安全・安心ニーズへの対応能力の強化」、「デジタル化とデータ活用」、「社員が活躍できる環境の構築」、「サステナビリティへの取組強化」を掲げています。財務目標としては、売上高経常利益率とROE(連結自己資本当期純利益率)を重視し、両指標とも10.0%以上を目標としています。初年度である2022年3月期(前期)の売上高は、12期連続で増収、11期連続で過去最高を更新したほか、利益についても各利益段階で過去最高を更新し、親会社株主に帰属する当期純利益は、10期連続で増益となりました。セキュリティ事業においては、機械警備業務の法人向けサービス「ALSOK-G7」に遠隔画像巡回などの高付加価値なオプションサービスを開始させたほか、ドローンを活用したインフラ設備点検、自動巡回の開発にも取り組んでいます。また、総合管理・防災事業

では国内外において清掃や点検などのビルメンテナンスをはじめ各種設備工事を提供しファシリティマネジメント業務を強化しています。介護事業については、介護施設での災害対策や感染症対策の強化につき、新たな法改正で必要となったBCPマニュアルの策定などのサービスも始めています。

### DXやデータサイエンスの分野への注力を加速する

**村井:** 中計初年度としての1年間を総括すると、必ずしも計画通りに進まなかったというのが率直な感想です。東京2020大会は、猛威を振るうコロナの影響なども受けながら、観客に対する議論や各種イベントが大きく変更になるなど、当初想定していた形では運営されなかったこともあり、その対応に相当程度の時間と労力を費やすこととなりました。東京2020大会の対応に経営資源の投入を優先させたことで、当初計画に沿った中計の施策が後手に回ってしまった感がありますので、今後は、DXやデータサイエンスなどの分野への注力を加速させていきます。2022年3月期の成果については栢木からの説明の通りですが、最終年度の財務目標として掲げる連結売上高6,500億円、経常利益650億円などは、さらに上振れさせるための努力も必要だと

## ALSOKの目指す姿

リスクが多様化する社会の中で、拡大する安全・安心ニーズに対応すべく、警備ビジネスモデルの変革を推進し、強靱な「総合安全安心サービス業」を目指す。

### 基本方針

#### 1 社会の多様な安全・安心ニーズへの対応能力の強化

- 警備・FM業等で培った内外インフラの強化と多様なサービス機能を組み合わせた新たなソリューションの創出
- 新技術を取り入れた迅速な商品・サービス開発

#### 2 デジタル化とデータ活用

- デジタル化
  - ・顧客とのコミュニケーション強化
  - ・オペレーションの効率化・省人化
  - ・デジタル技術等による機能補完
- データ活用
  - ・収集データの分析
  - ・外部データ連携

#### 3 社員が活躍できる環境の構築

- 人材多様化
  - ・多様な人材の採用
  - ・多様な働き方の提供
  - ・能力開発

#### 4 サステナビリティへの取組強化

- ガバナンスの強化
- SDGsへの取組み
- 環境問題への取組み

### 財務目標

実績(2022.3月期)	目標値(2026.3月期)	
連結売上高 4,890億円	6,500億円程度	配当性向 30%を目安に 安定配当を維持  将来のグループ規模 売上:1兆円程度 利益:1,000億円程度
連結経常利益 447億円	650億円程度	
連結経常利益率 9.2%	10%以上	
ROE 10.0%	10%以上	
投資計画(CFベース)		
項目	2022.3月期～2026.3月期	
研究開発・デジタル関連等投資	700億円	
M&A等	500億円	
※参考(キャッシュ増加予測) 2022.3月期～2026.3月期におけるキャッシュ増		
	1,100億円	

中期経営計画(GD2025)に関する詳細データは、当社ホームページをご覧ください。  
<https://www.alsok.co.jp/ir/management/plan.html>





考えています。ただし、その目標数値と現状の乖離を埋めることだけに翻弄されることなく、中計に盛り込んだエッセンスをしっかり見据え、今やるべきことを着実に進めていきたいと考えて

います。経営環境が変わっても、基本的に中計の各施策は計画通りに進めていくつもりです。

Theme3

## ALSOKの企業文化と強み

### 「ありがとうの心」「武士の精神」を持つ社員がALSOKの底力を発揮する

**栢木:** ALSOKの使命は、お客様の生命や財産を守ることにあります。災害発生時における治安維持に向けて対応をするという点は、際立って高い志を持っているように感じています。また、ALSOKは創業以来、「ありがとうの心」「武士の精神」を経営の基本精神としていますが、これらは研修などを通じて社員に深く浸透しています。ここは本当に誇れる部分だと思っています。1995年の阪神淡路大震災で、私は現場で指揮をとりました。現地の社員は自ら家族の安全・安心を確認したうえで、万難を排して出社し、全国からの応援社員とともに治安維持のため全身全霊で業務にあたってくれました※2。また、2011年の東日本大震災の際にも、ALSOKの社員は混乱に乗じた犯罪等からお客様の安全・安心を守るため、昼夜を問わず被災地のパトロールを実施したほか、福島第一原発周辺を含めATM等からの現金を回収し被害の拡大防止に努めるなど底力を発揮しました。私は、社員のこうした高い意識が、会社としての強み、そして社会からの信頼につながっていると強く感じます。社員一人ひとりのモチベーションは、その活躍に対する社会からの高い評価、信頼を受けて、さらに高まっていくこととなります。

また今後、ALSOKの社員が警備以外のサービスをお客様に提供する機会が増えていくことを考えると、今申し上げたような災害時の治安維持で発揮する高い志に加えて、新たなチャレンジが必要となります。銀行などのATM障害で駆けつけた際のお客様への丁寧な対応や、ビルのファシリティマネジメント業務の一次対応や、ホームセキュリティの現場での介助が必要な高齢のお客様への対応など、サービス品質に加えてお客様に対するホスピタリティにまで気を配る必要があります。こうしたマインドの醸成も進めているところです。

### 当事者意識をもって踏みとどまれる人財こそがALSOKの強み

**村井:** 栢木の申し上げたことと同じ意味合いなのですが、言い方を変えれば、いざという時に当事者意識をもって踏みとどまれる社員が多いところがALSOKの最大の強みだと思います。災害時のボランティアについても、ALSOKの社員には率先して自主的

に参加する人が多くいます。当然のことながら、参加しないという選択肢があるにもかかわらず、「やるべきことをやるんだ」という意識を持つ社員が多く存在するのです。こうした意識の高い社員は、時として業務ではお客様から見ても「過剰サービス」と思われがちで悩ましいのですが、「正しいと思ったことをやる」という意識を持つ社員が多いことが、組織としての強さにつながっていると思います。こうした社風が創業以来続いており、幸い事業環境にも恵まれたこともあって、これまで成長を続けることができたのではないかと思います。先ほども申し上げたとおり、東京2020大会への対応では、想定を超える労力と時間を費やしました。しかし、それでもALSOKの社員はいつの間にか最前線でリーダーシップを発揮して踏ん張っている姿を多く見かけました。このような企業文化を持つところが、まさにALSOKの強みであり、こうした企業文化を今後も重んじ、温めていくべきだと強く思います。また、お客様に恵まれてきたこともALSOKの強みだと思います。それは当社サービスに関する継続率の高さに表れています。一度ご契約をいただき、一生懸命警備サービスに取り組むことで、多くのお客さまから継続的にご契約をいただけています。ALSOKのサービスにご信頼を寄せていただくことで、お客様と長い間お取引をさせていただけることは大きな強みであり財産です。お客様から教えていただくことも沢山あるほか、常にお客様のニーズに触れられることが、新たなサービス開発にもつながります。こうした強みを今後の経営にもっと活かすべきだと考えています。

一方で、今後のさらなる成長を見据えた場合には、人財育成面での課題も存在します。警備業という枠組みで捉えれば、これまでも、またこれからも、定められた使命を正しく認識し、職務を全うするために最後まで踏ん張れる人財が求められます。ただ、もう少し先に進もうとすると、現場の状況を見て、その場で分析し、自分自身で判断し、軌道修正できるような人財も求められます。事業構造が複雑化する時代を迎え、トップが当初思い描いた前提条件が、実際の現場では異なっていたというような場合に、現場で良し悪しを判断し、適切に行動できる人財が必要となります。難しいテーマではありますが、こうした人財の育成が今後の課題ではないかと思います。

※2: 応援社員の延べ人数: 9,087名

Theme4

## ガバナンスとサステナビリティ



村井 豪 代表取締役 グループCEO兼CTO(最高技術責任者)

### ALSOKらしいガバナンス、 ALSOKらしいサステナビリティの推進

**村井:**ガバナンス体制の整備については、まだまだ課題も多くあると思っています。改訂コーポレート・ガバナンス・コードへの対応でも、ALSOKという会社にフィットしたガバナンスのあり方を模索していくべきだと考えています。

ガバナンスに関して社会が求めることの本質は、一つには「透明性」だと思います。整備されたガバナンスの仕組みがあり、ステークホルダーの皆様から見て、それが納得のいくものかどうか問われています。その意味では、ALSOKという会社に関する正しい情報を、広く発信していくことが大切です。ALSOKとして、こういう体制を敷き、こういう意味があるということ、透明性をもって発信していく努力をしていきたいと思っています。

また、新たな経営体制のもとでは取締役会の議長を務めさせていただいていますが、社外役員の方々のご発言も含め、取締役会では活発な意見が交わされていると認識しています。特に社外役員の方々のご意見は非常に示唆に富んでおり、多くの気づきが得られます。

中計の基本方針の一つに掲げているサステナビリティへの取り組みについては、警備業という事業そのものが社会課題の解決に直結するものと考えており、安全・安心を提供することはもちろん、環境保全という点でも、ALSOKはさまざまな役割を担えるのではないかと考えています。今後も本業の

拡大を通じて、ESGを推進し、SDGsへの貢献を果たしていく所存です。

また、ALSOKは民間の警備業者である以上、お客様との契約に基づき、お客様の安全・安心を守ることが大命題となります。ただし昨今では、事業活動を通じてサステナブルな社会の実現を目指すお客様が増えており、そうしたお客様に尽くすことで、私たちは間接的にサステナブルな社会の実現に貢献していることを強く意識できるようになりました。このことは、ALSOKの社会的な存在意義を社員に説明するうえで重要なポイントであると考えています。

### コンプライアンスの徹底、リスク管理強化、 ジェンダー平等にも配慮する

**栢木:**新経営体制となり、取締役会では新経営体制の推進に関する期待のほか、ここを変えていくべきだといったヒントも数多くいただいています。

地政学的なリスクなど、さまざまなリスクが高まる中で現状をしっかりと認識し、リスクマネジメントを高度化させていく必要があります。ガバナンスに関しては社員も重要な主人公となってくるので、基本的な考え方の共有や教育など、意識の醸成についても徹底していきます。また、重要な課題として捉えているのが「ジェンダー平等※3」への配慮です。警備業務については、昔から男性が中心となって進めていたこともあり、女性の活躍推進については特段の配慮が必要です。現在、社外の役員からは、女性の視点からのご意見も積極

※3:SDGs目標5:ジェンダー平等を実現しよう。



的にいただいています。最近では事業所を見学していただき、女性が活躍できるフィールドの整備に向けて貴重なご意

見も頂戴しているところです。

Theme5

## ステークホルダーへのメッセージ

### これまで培った強力なインフラを駆使して サービスを拡充していく

**栢木:**当社を取り巻く国内外の事業環境は常に変化しています。ロシアのウクライナ侵攻による資源価格高騰や地政学リスクの高まり、インフレの進行や急激な円安、半導体の不足やサプライチェーンの混乱などリスクを数えればきりがありません。このような難しい事業環境の中、社長として従業員に対して指示をしているのは「お客様の課題解決ができる企業を目指す」ということです。既に申しあげたとおり、お客様の事業環境も常に変化しておりお困りごとは、警備以外にも多様化、複雑化しています。その中には、ALSOKが有するチャンネルだけで提供できるものもあれば、そうでないものもあります。後者に関しては、さまざまな企業とコラボレーションをすることでクリアできることもあります。例えば、本年8月には福島県の地域金融機関を中心にする7社と脱炭素の構築ならびに地域経済活性化の実現に向けた連携協定を締結しました。当社グループは、その枠組みの中では、EV充電設備等の施工管理や設置工事、メンテナンスを担当しています。今後はこうした多面的な展開によって、サービスの領域を広げていきたいと考えています。24時間365日の対応力、そして全国3,000カ所待機するガードマンというインフラを使いこなすサービスメニューが、これから着々と付加されていきます。DXを駆使することで、さらにこうした

サービス分野の拡大を加速させていくことができます。新たな事業領域を拡大していく今後のALSOKの取り組みにぜひ注目していただきたいと思います。

### 沢山ある「やるべきこと」に全社で挑んでいく

**村井:**まずは中計の各施策にしっかり取り組み、収益力を高め、企業価値の向上に向けて邁進していきたいと思います。また株主価値の向上に向けても、今後はさまざまな選択肢を検討していくつもりです。

あらためて現状の事業環境を見ると、国内では少子高齢化が進展し、また直近では感染症の被害に見舞われるなど、社会全体がさまざまな課題に直面し、さまざまな価値観が渦巻く中で、閉塞感が苛まれている企業も数多く存在します。私は、このような閉塞感が強まる社会でも、やるべきことは沢山あると信じています。57年の事業活動を通じてALSOKには確かな問題発見能力が備わっており、山ほどの課題が目の前にあることは認識しています。しかし考え次第では、これは私たちにとって非常に幸せなことではないかと思っています。

ステークホルダーの皆様には、ALSOKの目の前に広がる事業機会、可能性を感じていただき、不透明で難しい時代においても前を向いて問題解決に挑み、全社で進んでいくALSOKの可能性にぜひ、期待を寄せていただきたいと思います。



栢木 伊久二 代表取締役 グループCOO

# ALSOKの価値創造の歩み

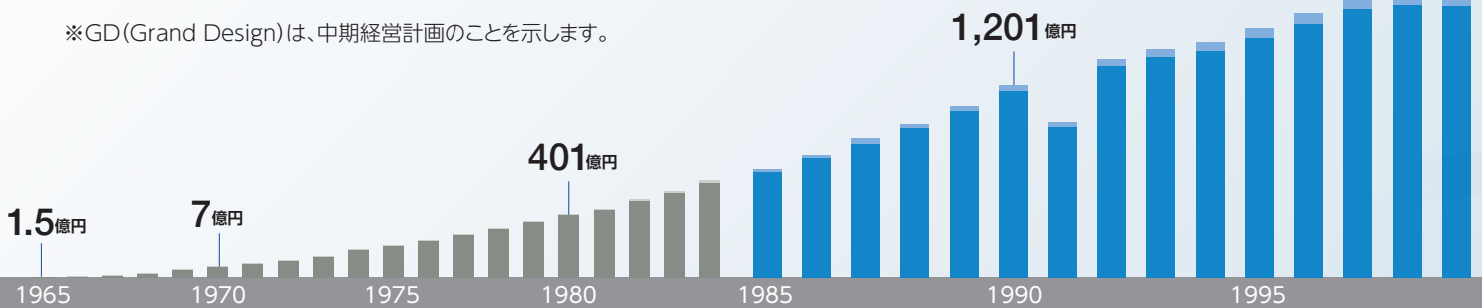
## 先進的なチャレンジと独創性を発揮して、社会的課題を解決

ALSOKは、創業以来、「安全・安心」な社会の実現を目指してきました。半世紀を越す歴史の中で、警備の技術やサービスの品質、人材の教育を追求し、そしてそれらを強みとして歩んできました。これからも先進的なチャレンジと独創性を発揮して、社会的課題を解決していきます。

### 売上高

- セキュリティ事業の売上高
- セキュリティ事業以外の売上高

※GD(Grand Design)は、中期経営計画のことを示します。



1965~

創業の時代



1965年

警備請負業を主たる事業目的として総合警備保障㈱を設立



1966年

警備輸送業務の開始



1967年

法人向け機械警備「総合ガードシステム®」を開発、発売



1970年

日本万国博覧会の常駐警備を実施



1975年

常駐警備に設備制御・監視ができる設備を併用した「オルムシステム®」を開発、発売

1985~

守成の時代



1988年

一般家庭向け機械警備「タクルス®」を開発、発売



1995年

都内の機械警備の一元的な集中監視と指令業務を行う東京指令センターを運用開始



1997年

従来のCD機に加え取納代行、情報検索機能等を搭載した多機能型ATM「MMK®」を開発、発売



1997年

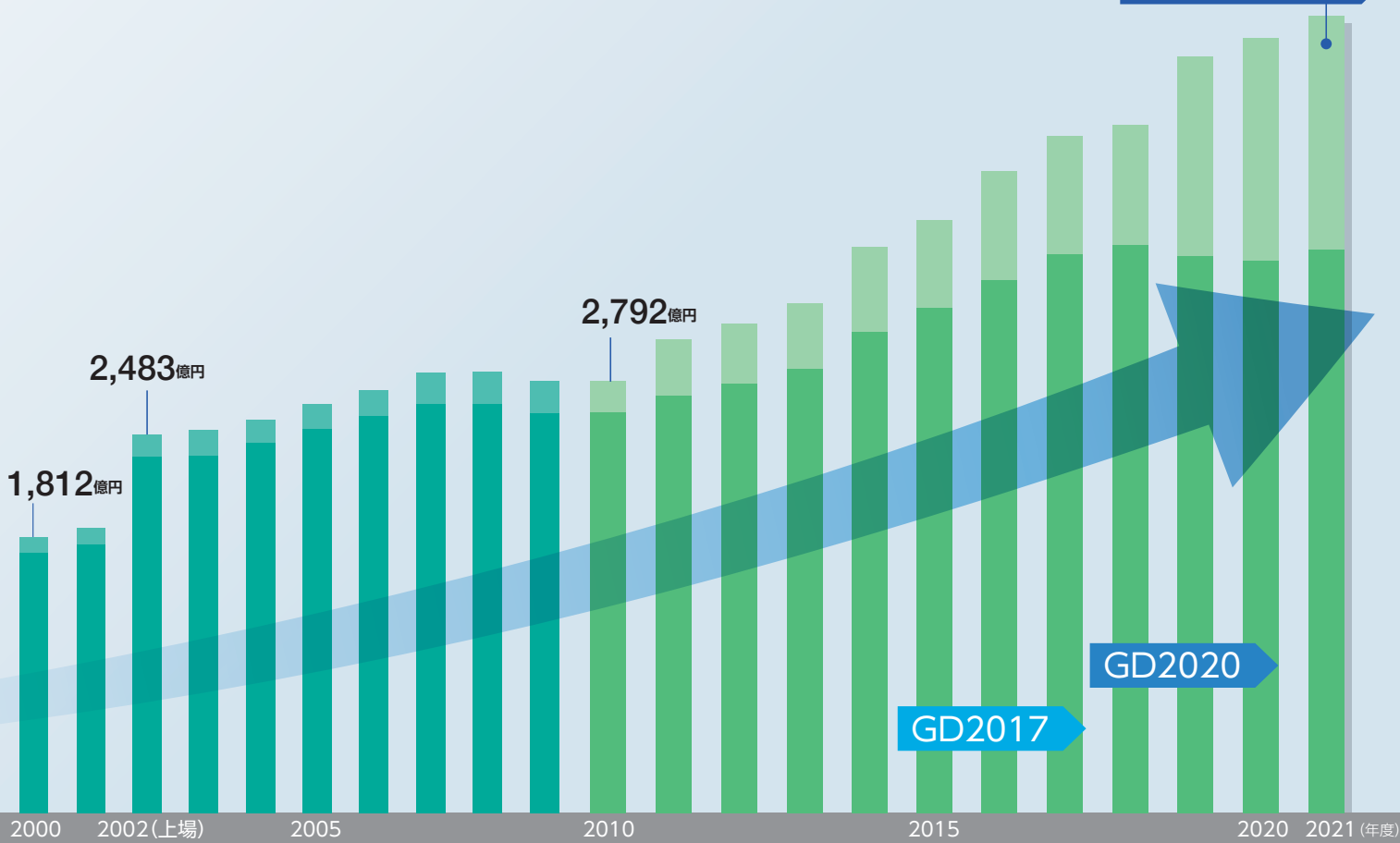
売上金や釣銭の流れを円滑化し、現金処理に係る要因の省力化・設備コストの削減に効果を発揮する「入金機オンラインシステム」を開発、発売



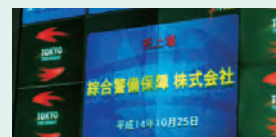
1998年

一般家庭向けに、防犯・防災警備のほか救急情報、ホームバンキング、健康相談などの生活便利機能を備えた「SOKホームセキュリティ」を開発、発売





1999~ 第二の創業の時代



**2002年**  
東京証券取引所市場第一部に株式を上場



**2003年**  
新コーポレートブランド「ALSOK」を制定



**2005年**  
子どもたちの安全を守るために、守りのプロである当社社員を講師として派遣する「ALSOKあんしん教室®」を全国展開



**2005年**  
ロボットを用いた常駐警備システムを可能とする新型巡回警備ロボットを開発、発売



**2005年**  
大型住宅向けに機能を拡充させた「ALSOKホームセキュリティX7」を開発、発売



**2008年**  
インターネット警備サービスの標準化など、お客様視点で発想した「安心・便利」な機能を強化した「ALSOKホームセキュリティα」を開発、発売

2010~ 第三の創業の時代



**2012年**  
個人向けブランド「HOME ALSOK」立ち上げ

**2013年**  
高齢者向け緊急通報・相談サービス「HOME ALSOK みまもりサポート®」を販売開始



**2015年**

店舗で利用する釣銭を出金・両替し、売上金を銀行へ持ち込むことなく入金できる「入出金機オンラインシステム」を開発、発売



**2020年**  
「HOME ALSOK みまもりサポート®」リニューアル発売

**2020年**

三菱商事との資本業務提携を機に「中央監視盤」の取り扱い開始



**2021年**

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会警備を7月から9月にかけて実施



**2020年**

法人企業向けセキュリティシステム「ALSOK-G7(ジーセブン)」を販売開始

## 財務・非財務ハイライト

売上高

4,890億円

前期比 4.1%増 

親会社株主に帰属する当期純利益

290億円

前期比 15.8%増 

経常利益

447億円

前期比 14.2%増 

配当金

82円

配当性向 28.7%

前期比 10円増 

ROE

10.0%

前期比 0.4p増 

設備投資額/減価償却費

設備投資額 162億円

減価償却費 168億円

ROA

9.2%

前期比 0.6p増 

機械警備契約件数 法人/個人

法人 548,580件

個人 460,679件



ENVIRONMENTAL

E

CO<sub>2</sub>排出量 売上高原単位(グループ)

0.174t-CO<sub>2</sub>/百万円

前期比 3.8%減 ↓

CO<sub>2</sub>排出量(グループ)

売上高

85,146t-CO<sub>2</sub>/4,890億円

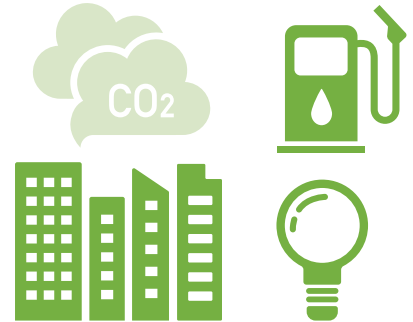
前期比 0.4%減 ↓

燃料使用量(グループ)

16,699kl

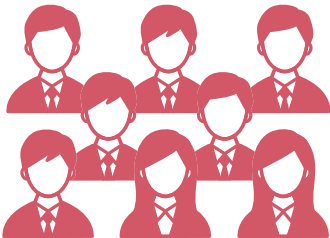
電力使用量(グループ)

84,546千kWh



SOCIAL

S



従業員数  
(連結)

38,192人

女性従業員数  
(連結)

5,519人

前期末比 0.9%増 ↑

女性管理職比率(単体)

4.0%



救急救命講習  
修了者数

延べ

21,770人

(普通・上級含む)



ALSOKあんしん教室®  
参加児童数

累計

170.1万人

(2004年より開始)



介護施設入居者数

約6,200人

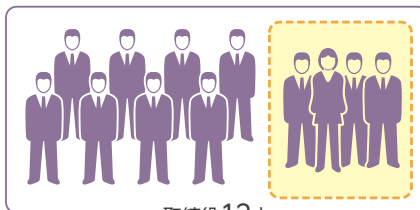
介護サービス等利用者数

約21,000人

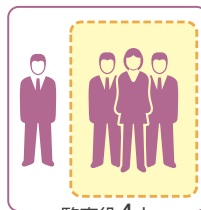


GOVERNANCE

G



取締役12人  
(うち社外取締役4人)



監査役4人  
(うち社外監査役3人)

取締役・  
監査役

16人

(女性取締役1人  
女性監査役1人)

取締役会出席率

100%



ISO27001 (ISMS) 認証  
取得グループ会社数

20社

(本体含む)



ISO9001 認証  
取得グループ会社数

57社

(本体含む)



ISO14001 認証  
取得グループ会社数

40社

(本体含む)



内部通報制度  
グループ会社利用数

75社



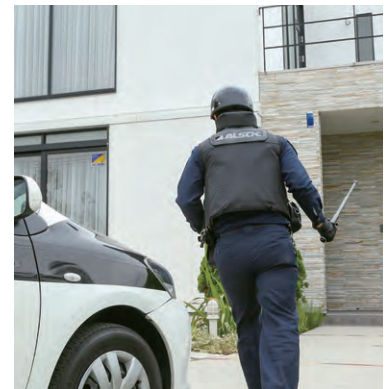
## 各事業の紹介

当社グループは、社会の安全・安心に関するサービスを行う事業者として、中期経営計画「Grand Design 2025」に掲げております。「お客様と社会の安全・安心を支える強靱な総合安全安心サービス業」を目指して、リスクが多様化する中で拡大するお客様と社会の安全・安心ニーズに応えるべく、警備・設備・介護などの多様なサービス機能を組み合わせた新たなサービス提供に取り組んでいます。

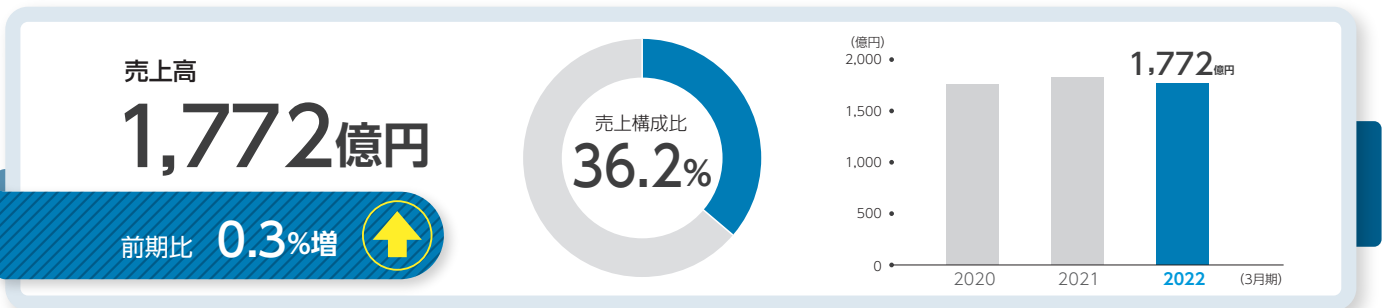
### セキュリティ事業

#### 機械警備業務

ご契約先に警報機器を設置し、通信回線により、侵入、火災、設備異常などの情報をガードセンターで遠隔監視し、異常事態に対して待機中の警備員が出勤し対応する業務です。法人向けサービスとして、ライブ画像確認を標準装備し、画像蓄積や画像を活用した遠隔監視、遠隔からの設備制御などのオプションサービスに加え、中央監視システムとの連携を図ることでお客様の省人化ニーズにも貢献する「ALSOK-G7」の販売を推進しています。個人向けサービスとしては、設置工事が簡単な住宅向けスタンダードモデルである「ホームセキュリティBasic」、高齢者向け見守りサービス「HOME ALSOK みまもりサポート®」などの販売を推進しました。



また、スマートフォンのアプリを通じてリアルタイム映像や録画した映像を確認でき、緊急時にはALSOKへ駆けつけ依頼を行うオプションサービスの利用も可能な「HOME ALSOK 屋外対応無線式IPカメラ」の提供を開始しました。



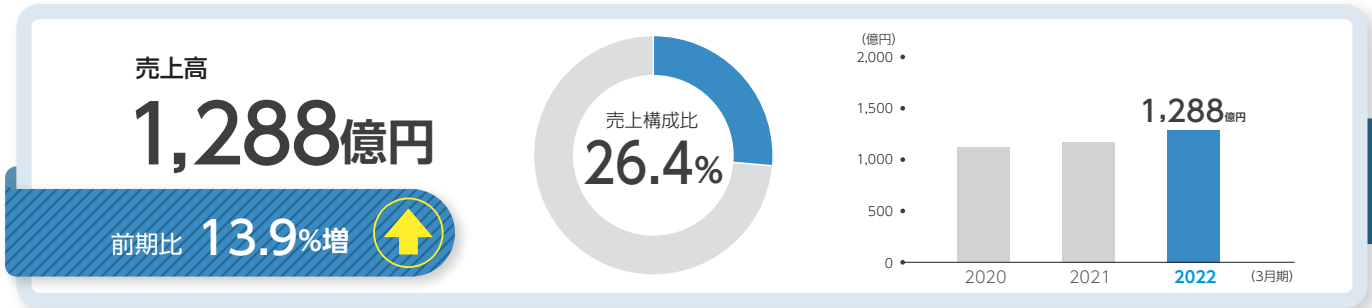
#### ●現場駆けつけの流れ





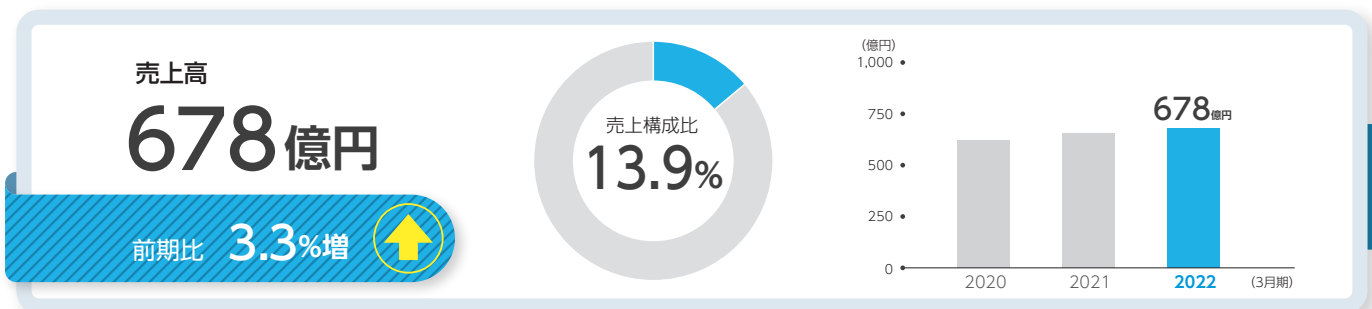
## 常駐警備業務

ご契約先の施設に警備員を配置し、出入管理、巡回、監視を行い、各種事故の予防と緊急時や事故発生時に対応する業務です。また、国際会議やスポーツ競技、パレードなど各種イベント警備や、国内外の著名人、企業の役員などに対する身辺警護を含め、幅広いニーズに対応しています。さらに、各種資機材（金属探知機、X線検査装置など）を活用することで、より効率的かつ効果的な警備を提供しています。



## 警備輸送業務

ご契約先の指定場所に現金、有価証券などの貴重品を現金輸送車などにより輸送する業務です。現金、有価証券などを安全に輸送する現金輸送サービスのほか、店舗売上金管理と警備輸送ネットワークでトータルサポートし、お客様の業務効率化に資する「入(出)金機オンラインシステム」、金融機関やコンビニエンスストアに設置されたATMなどを対象に現金の補充・回収や障害時の対応など、運営・管理をトータルで行う「ATM管理サービス」を提供しています。



## 警備業界データ

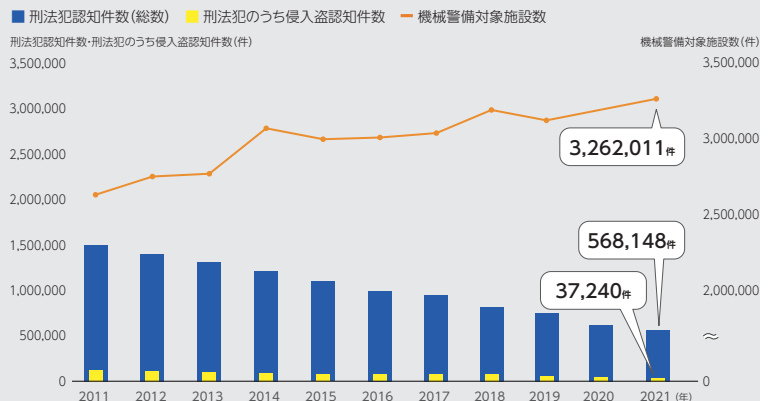
国内警備業の概要 (2021年12月末現在)

企業数 **約10,300社**

売上高総額 **約3.5兆円**

警備員数 **約59万人** (うち女性は約4万人)

### 刑法犯認知件数と機械警備対象施設数の推移



## 各事業の紹介

### 総合管理・防災事業

各種建物設備の管工事、電気工事、修繕・リニューアル工事や防火・防災業務、設備管理業務、清掃・衛生管理業務、電話対応業務などのビル・マンション等の各種施設における維持、管理、運営を通じて、建物管理コストの低減から資産価値の維持・向上まで、建物の建設・運営・管理をトータルサポートする事業です。また、災害対策用品、感染症対策用品、AEDの販売なども行っております。防災事業においては、総合防災メーカーであるホーチキ株式会社および日本ドライケミカル株式会社との資本業務提携の締結および持分法適用関連会社化により、防火・防災分野における事業推進体制の強化を図るとともに、多様化するお客様ニーズに適合した新商品・サービスの共同開発・販売を行っています。



#### ALSOKの総合管理・防災事業の特徴

コスト削減から資産価値の維持向上まで、お客様の事業運営をトータルにサポートしています。

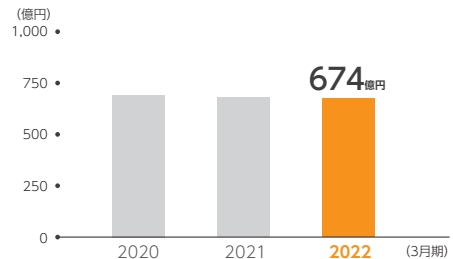
【特徴】

- ① ワンストップで一括管理
- ② 警備・設備管理の融合
- ③ 警備会社ならではの対応力
- ④ コストの最適化
- ⑤ 最高額10億円の損害補償

売上高

674億円

前期比 1.1%減



### TOPICS

#### 海外事業について

当社は、2007年から日系企業の進出が多い東南アジアを中心に海外事業を展開し、タイ、ベトナム、上海、インドネシア、インド、ミャンマーの6つの国・地域に現地法人を設立しています。

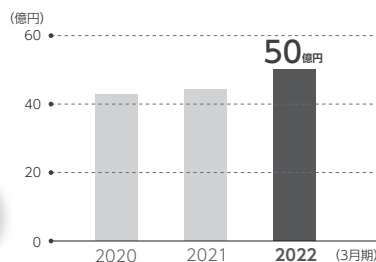
現在では、セキュリティコンサルティングや常駐警備業務、システムを活用した機械警備サービスの提供にとどまらず、防災や清掃、ビル施設管理などのファシリティマネジメントにまで事業領域を拡大しています。

また、日系企業だけでなく、現地のサービス業や金融系企業に対してもサービスを提供しています。

売上高

50億円

前期比 13.7%増



※海外事業の売上はセキュリティ事業、総合管理・防災事業、その他事業売上に含まれています。



## 介護事業

居宅介護支援(ケアプラン作成)や、ご自宅での生活を支援する訪問介護・訪問看護・デイサービスなどの在宅系介護サービスから、特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム)・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、サービス付き高齢者住宅などの施設介護サービスまで、幅広いサービスを提供しています。また、福祉用具の販売・レンタル事業のほか、在宅療養者向けに訪問医療マッサージサービスも提供しています。

2022年6月には、介護事業のさらなる強化を図るべく、「ALSOKジョイライフ株式会社」および「ALSOKライフサポート株式会社」を子会社化しました。今後も介護支援AIロボットなどを活用し介護業務の効率化による経営基盤の強化と施設の拡充を図るとともに、他社にはないトータルケアを介護事業の統一ブランド「ALSOKの介護」のもとで提供していきます。

## ALSOKの介護



ALSOKライフサポート(株)ローズライフ高の原

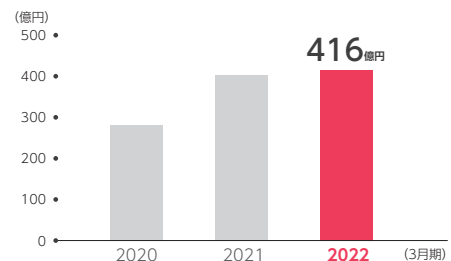
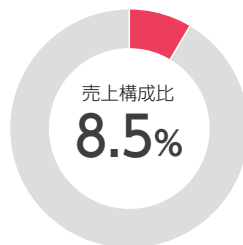
### ALSOKの介護事業の特徴

- ① 自立の方から介護が必要な方までライフステージの変化に合わせて高品質なサービスをワンストップで提供
- ② すべての介護施設にセキュリティを導入、警備会社ならではの対応力で平時はもちろん災害時でも安全・安心

売上高

416億円

前期比 3.2%増



## その他事業

キャッシュレス社会の進展への対応のため、キャッシュレス決済事業者として、QRコード決済を中心に、1つのアプリ、1つの端末で複数のペイメントに対応可能な「ALSOKマルチQR決済ソリューション」を提供しています。また、サイバー攻撃による被害やなりすましメールの対策として重要性が高まっている情報端末管理のための「ALSOK PCマネジメントサービス」など、さまざまな情報セキュリティソリューションを提供しています。

その他、2022年6月には、大気汚染防止法の改正により厳格化された石綿含有検査をサポートする「アスベスト総合サービス」の提供を開始しました。

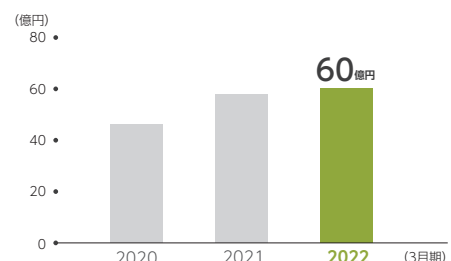
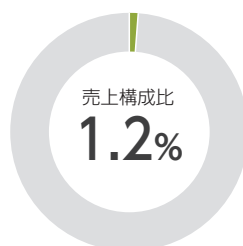


ALSOKマルチQR決済ソリューション端末

売上高

60億円

前期比 3.8%増





## 主な事業内容

## 主な商品サービス

### セキュリティ事業

#### 機械警備業務

- オンラインセキュリティ

#### 常駐警備業務

- 出入管理
- 巡回
- 監視
- イベントの警備
- 要人警護

#### 警備輸送業務

- 現金・貴重品輸送
- 店舗売上金管理
- ATMの現金補填・回収・障害対応

### 総合管理・防災事業

- 各種建物設備の修繕・リニューアル工事・管工事・電気工事
- 防火・防災業務
- 設備管理業務
- 清掃管理業務
- 衛生管理業務
- 電話対応業務

### 介護事業

- 居宅介護支援
- 在宅系介護サービス
- 施設介護サービス
- 福祉用具の販売・レンタル事業
- 訪問医療マッサージ

### その他事業

- 情報セキュリティ
- 各種検査事業
- 警備ロボット
- 各種コンサルティングサービス
- ヘルス・セキュリティ
- QRコード決済

#### ■ ALSOK-G7

ライブ画像確認を標準装備としたセキュリティシステム  
 (ALSOK換気促進ソリューション、ALSOK混雑状況配信サービス)

#### ■ ホームセキュリティBasic

マンションや戸建などの一般家庭に最適な万能型システム

#### ■ HOME ALSOK みまもりサポート®

ご高齢者向け緊急通報・電話健康相談のサービス機能を付加したシステム

#### ■ 常駐警備

施設の警備員が常駐。万が一に備え、防犯・防災のための巡回や監視業務、設備・機器管理を実施

#### ■ 臨時警備

国際会議や各社イベントなど、短期的な警備も柔軟に対応

#### ■ 入(出)金機オンラインシステム

店舗売上金管理機能と警備輸送ネットワークのトータルサポート

#### ■ ATM管理サービス

ATMの現金の補充・回収や障害時の対応など、運営・管理をトータルサポート

#### ■ ファシリティマネジメント

建物設備の修繕・リニューアル工事や防火・防災業務、設備管理、清掃管理、衛生管理、電話対応など建物の運営・管理をトータルサポート

#### ■ AED

販売・レンタル・管理・講習に対応

#### ■ 災害対策・感染症対策用品

エアバスター(オゾン脱臭機)、サーモグラフィ(体表温スクリーニング)の販売、備蓄品マネジメント

#### ■ 居宅介護支援

ケアプラン作成など

#### ■ 在宅系介護サービス

訪問介護・訪問看護・デイサービスなど

#### ■ 施設介護サービス

有料老人ホーム、グループホーム

#### ■ 福祉用具

介護ベッド、車いす、手すり、歩行器等の販売・レンタル

#### ■ ALSOK PCマネジメントサービス

オールインワンのIT資産管理システム

#### ■ REBORG®-Z

施設を巡回・監視する警備ロボット

#### ■ ALSOK安否確認サービス

自然災害時の安否確認やウイルス感染での体調確認ツール

#### ■ ALSOKマルチQR決済ソリューション

1つの端末で複数のペイメントに対応可能なキャッシュレス決済サービス

#### ■ 鳥獣わな監視装置II

有害鳥獣による農作物などの被害防止を支援

#### ■ オフィスドクターパック

50名未満の事業場向けのパッケージ型産業医サービス

#### ■ アスベスト総合サービス

石綿(アスベスト)含有調査に係る業務の請負

#### ■ その他

護身術講習、ALSOK塾(ガードマン研修のノウハウを活かしたキャリア教育サービス)



## 法人向けサービス



### 機械警備業務

- ・ALSOK-G7
- ・ALSOK換気促進ソリューション
- ・ALSOK混雑状況配信サービス

### 常駐警備業務

- ・自律移動型警備ロボット「REBORG®-Z」
- ・ALSOK交通誘導システム

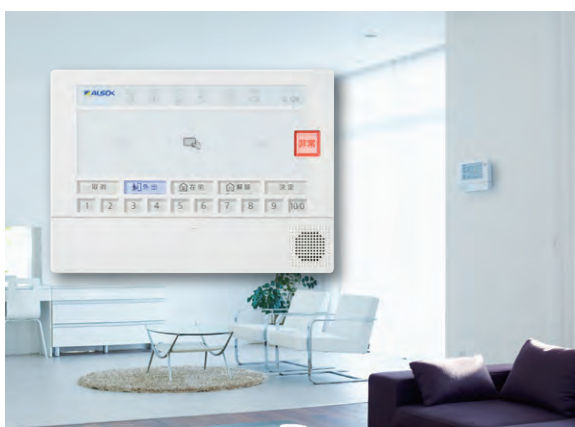
### 警備輸送業務

- ・入(出)金機オンラインシステム
- ・ATMアウトソーシング業務
- ・税金受付システム(自治体向け)

### 総合管理・防災事業

- ・ファシリティマネジメント
- ・電話対応業務
- ・ビル管理・清掃業務
- ・建物管理・応急処置
- ・AED販売・管理
- ・防災業務、省エネ対策
- ・試験監督サポートサービス

## 個人向けサービス



### ホームセキュリティ

- ・ホームセキュリティBasic
- ・HOME ALSOK Premium
- ・HOME ALSOKみまもりサポート®

### 目的別サービスプラン

- ・屋外対応無線式IPカメラ IP-C730
- ・盗聴器・盗撮器探索サービス
- ・まもるっく
- ・HOME ALSOKるすたくサービス
- ・HOME ALSOKレディースサポート®
- ・HOME ALSOKハウスサポート(月額会員プラン)
- ・トビラフォン(迷惑電話自動着信拒否装置)
- ・各種介護サービス

## 災害・情報漏洩対策



### 災害対策

- ・ALSOK空撮サービス
- ・BCPソリューション

災害図上訓練、BCP・防災マニュアル策定支援、BCP・防災マニュアル見直し  
防災講習会、備蓄品マネジメント支援、水防法対策、防災訓練実施支援

- ・安否確認サービス
- ・備蓄品マネジメント
- ・蓄電システム

### 情報漏洩対策

- ・情報セキュリティ診断サービス
- ・標的型メール訓練サービス
- ・ネットワーク監視サービス
- ・ホームページ改ざん検知サービス
- ・PCマネジメントサービス



# ALSOKの価値創造モデル

## お客様と社会の安全安心を支える 強靱な「総合安全安心サービス業」を目指す

### 経営資源



#### 豊富な人材

- ・充実した研修体制
- ・ダイバーシティの推進
- ・従業員数:38,192人



#### 卓越した商品・サービス開発力

- ・AI・ICTなど最先端技術の活用



#### 信頼とネットワーク

- ・信頼のALSOKブランド
- ・グローバルに展開するサービス網:  
東南アジアを中心に6カ国・地域
- ・日本全国の警備拠点:  
約3,000カ所
- ・機械警備契約件数:  
約1,000,000件
- ・事業拠点数:  
本社・64支社・37支店・255営業所  
連結子会社74社  
持分法適用会社14社
- ・各種認証取得  
(ISO9001、ISO14001、ISO22301)



#### 健全な財務体質

- ・安全かつ健全な財務体質
- ・自己資本比率:  
57.3%
- ・連結純資産:  
270,432百万円
- ・格付(R&I) : A+

(2022年3月末現在)

### 経営理念

「ありがとうの心」と「武士の精神」を  
もって社業を推進し、  
お客様と社会の安全・安心の  
確保のために最善を尽くす。

ALways Security OK



### 強み

人材力

組織力

信頼

事業領域  
提供サービス

機械警備業務

常駐警備業務

警備輸送業務

総合管理・防災事業

介護事業

その他事業

サステナビリティ

E 環境

S 社会



創業以来50余年、高品質なセキュリティサービスを提供し続けてきたALSOKグループは、「人材力」や「組織力」、そして「信頼」が大きな強みです。めまぐるしく変化する内外情勢の中、お客様と社会の安全安心を「守る」ための新たな価値創造と持続的成長を実現し、すべてのステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

中期経営計画  
(2021～2025年度)

# Grand Design 2025

リスクが多様化する社会の中で、拡大する安全・安心ニーズに対応すべく、警備ビジネスモデルの変革を推進し、強靱な「総合安全安心サービス業」を目指す。

1. 社会の多様な安全・安心ニーズへの対応能力の強化
2. デジタル化とデータ活用
3. 社員が活躍できる環境の構築
4. サステナビリティへの取組強化

長期目標

強靱な  
「総合安全安心  
サービス業」  
の実現

売上 **1** 兆円

利益 **1,000** 億円



# ALSOKの強み

お客様と社会の安全安心に貢献するALSOKの強みで、  
新たな価値創造に取り組んでいきます。



## ALSOKの理念を 具現化する 人材力

人や社会を守ることを価値として提供するALSOKでは、「人」が何より重要な資本となります。そのためには、経営理念にある「ありがとうの心」と「武士の精神」を、実際の行動として実践できる人材の育成が必要です。警備、FM、介護のプロとして、エキスパート人材の育成などにも注力しています。また、より安心してご利用いただけるサービスを提供すべく、駆けつけ業務で緊急時に急行するALSOK隊員の介助技能を向上させるために設けた社内認定制度「ALSOK介助」を設け、社員の介助技能の習熟を図っています。

警備対策分野の要員として、  
海外の日本大使館・領事館などに  
派遣された人数

延べ **850人以上**



セキュリティプランナー  
累計 **782人**

セキュリティコンサルタント  
累計 **37人**

施工管理技士・  
電気工事士  
約 **1,500人**

消防設備士  
約 **2,600人**

介護福祉士  
約 **2,500人**

救急救命講習  
修了者数  
延べ **21,770人**

武道有段者数  
**3,631人**

女性従業員数  
**5,519人**  
(全従業員中14.4%)



### 創業者が描いた警備会社の理想像

ALSOKの4つのモットー

## 誠実・正確・強力・迅速

### 誠実

太陽…「誠実」をあらわす。

- ・警備会社の生命
- ・契約先の生命、財産を守るという重大使命を持つ

### 正確

棒…「正確」をあらわす。

- ・プロの警備は正確で
- ・あいまいな警備は許されない



社章

### 強力

鷲…「強力」をあらわす。

- ・強い精神力

### 迅速

月桂樹…

「迅速」オリンピックの勇者をあらわす。

- ・警備は常に迅速でなければならず、警備の根本

2

ALSOKの  
強み

# 安全安心を 確実とする 組織力

業界トップクラスのネットワークを有することで、社会やお客様に安心感を提供するとともに、非常事態が発生した際には、即座に現場へ駆け付ける機動力を有しています。

24時間365日対応可能な警備業のノウハウを生かし、仕事の効率化やコスト削減、本業に専念したい(各種作業のアウトソーシング)など、お客様の抱えるさまざまな課題解決にも貢献していきます。

日本全国の  
警備拠点数約**3,000**カ所従業員数 **38,192**人保有車両台数※ **9,423**台  
※自転車を除く現場への駆けつけ時間 **平均16分**「ありがとう運動」福祉車両寄贈数 **累計134**台東南アジアを中心に **6カ国・地域**

3

ALSOKの  
強み

# 行動と実績で 築き上げた 信頼

日本における警備のリーディングカンパニーとしての実績やスキルが評価され、国内外で多くの警備契約をいただいています。大規模イベントの警備では多数の実績を有しているほか、高齢者向けの見守りサービス(緊急通報サービス)などにおいても業界トップクラスの実績を有しています。地域や社会からも信頼していただける企業であるために、サステナビリティ・ESGの取り組みも積極的に行っています。

機械警備件数 **約1,000,000**件

※集合住宅における対象戸数を含めると約125万戸

緊急通報サービス提供自治体数 **約500自治体** (全国1,747自治体)AED累計販売台数 **約227,000**台入(出)金機オンラインシステム **約27,900**台年間現金取扱高 **約485兆円**「ALSOKあんしん教室®」実施回数 **累計54,439**回

外部機関からの評価 | ・くるみん ・えるぼし ・FTSE4Good ・FTSE Blossom Japan  
・MSCI ESG セレクト・リーダーズ指数

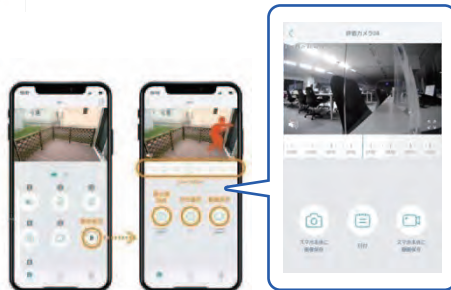
## ALSOKの新商品・サービス

ALSOKは、お客様に「安全」で「安心」な毎日を過ごしていただくため、「警備会社」のノウハウに「最新技術」を取り入れ、新しい「安全」の形をご提供すべく、日々セキュリティに関する最先端技術の研究開発を続けています。

### HOME ALSOK屋外対応無線式IPカメラ

2022年6月1日より、屋外・屋内問わず簡単に設置ができ、スマートフォンのアプリを通じてリアルタイム（ライブ）映像が確認できるIPカメラ「HOME ALSOK屋外対応無線式IPカメラ IP-C730」の提供を開始いたしました。

HOME ALSOK



- 従来カメラと異なり工事レスで利用可能。バッテリー駆動、Wi-Fi通信により設置場所を選ばず、さまざまな生活シーンの安全と安心に大きく寄与。
- スマホからいつでもライブ動画を確認可能。
- IPカメラが動体を検知した際は映像を記録し、スマホへ通知。外出中でも安心です。



もしもの時にALSOKの隊員が駆けつける、「駆けつけ依頼オプションサービス」



(ALSOKステッカー付き)

### 中型入出金機オンラインシステム MH-Aモデル、MO-A2モデル

2022年6月30日より、店舗の売上金・現金管理をトータルに行う「中型入出金機オンラインシステム」をリニューアルした、「MH-Aモデル、MO-A2モデル」の提供を開始いたしました。お客様からご要望の多かった「小口出金」「小口振替」機能等を新たに追加しました。「小口出金」機能とは、今まで店舗の金庫で管理していた小口現金を入出金機から出金できる機能です。また、投入した売上金の一部を小口出金用に振替える「小口振替」機能により、小口現金が不足した場合にも、別途現金を補充する必要がなくなりました。

#### 「主な機能」

- 複数台連携機能を実装
- 現金収納部の組み合わせ選択化
- 棒金保管庫の実装
- 外部システムとの連携
- 操作画面の英語対応



MH-Aモデル



MO-A2モデル



## 最新TOPICS

当社は、東京商工会議所（東京都千代田区、三村明夫会頭）に導入している自律移動型警備ロボットを、最新機種「REBORG®-Z（リボーグゼット）」へリニューアルしました。今回のリニューアルにより、セキュリティレベルおよびサービスレベルを向上するとともに、初代会頭である渋谷栄一氏をモチーフとした東京商工会議所オリジナルラッピングにモデルチェンジいたしました。

2018年11月の新東京商工会議所ビル（丸の内二重橋ビル）竣工以来、ALSOKの警備ロボットは1階エントランスで、巡回警備や搭載する案内コンテンツで来訪者対応を行ってまいりましたが、このたび新たに導入した「REBORG®-Z」は、従来の機能に加え、エレベータとの連動により執務室のあるフロアまで移動することが可能となり、働き方改革の一環として帰宅を促す音声案内を行う仕様にいたしました。また、案内コンテンツも、東京商工会議所の独自性を取り入れた内容にリニューアルしました。

「REBORG®-Z」は、ショッピングモールや複合施設、空港などさまざまな場所に導入されており、今後も警備員とロボットの連携で高品質な警備サービスを提供するとともに、施設の付加価値向上に貢献しています。



東京商工会議所の1階エントランスで巡回警備するREBORG®-Z

## ロボット開発の変遷

労働集約型な常駐警備の効率化を目的として1982年に自律走行型の警備ロボットの研究開発に着手しました。2002年には、警備+案内機能を搭載した「ガードロボC4」の販売を開始し、その後 走行機能や監視機能の改良を続け、2019年に最新型の「REBORG®-Z」をリリースしました。現在では日本全国で27台の警備ロボットが稼働しています。

- 少子高齢化を背景に、警備の質の向上および省人化を目的としてロボットの研究を開始。
- 商用スタートで、セキュリティ市場におけるロボットを技術的なイメージリーダーとして位置付け。
- セキュリティ市場のみならず、インフォメーション機能を有した多機能なロボットの活躍を追求。

## REBORG®-Zの標準機能

機能	機能詳細
監視カメラ機能	ロボットに内蔵された前面/背面のカメラ映像を常に録画します。
警戒監視機能	ロボットに内蔵されたセンサーにより、警戒エリアへの侵入者を検知します。侵入者を検知した際は専用PCにおいて確認が可能です。
移動機能	設定したルートの自動走行や充電装置での自動充電が可能です。警備巡回の自動化・高度化・省力化に貢献します。
防滴・防塵性	防滴・防塵のため、施設の外周を巡回することが可能です。
遠隔監視機能	監視カメラ映像やエリア警戒時の異常を遠隔地で確認します。自動巡回中の映像は専用のPCで現地の状況をタイムリーに確認することができます。
液晶表示機能	提供された映像コンテンツの表示・再生します。施設の案内表示、店舗の広告、イベントの告知などご指定のデータを表示させることが可能です。
顔認証機能	ロボット内蔵カメラにより、予め登録された人物との照合をすることが可能です。要注意人物の早期発見による事故・事案の抑制や重要なお客様への早期対応による顧客対応にも有効です。

2002年  
ガードロボC4  
警備+案内機能



2005年  
D1  
屋外巡回の基礎研究



2006年  
リボーグQ®  
警備員との協働



2009年  
An9-PR  
案内需要への対応



2015年  
Reborg-X  
人との連携強化



2019年  
REBORG®-Z  
異常検知の強化



## 品質向上への取り組み

セキュリティ事業や総合管理・防災事業、介護事業など、お客様の生命や財産を守るというALSOKの事業の特性上、信頼関係を基盤に、お客様の意向に合う高品質なサービスを提供することが、重要な経営課題であると考えています。

集約されるお客様の声を業務改善に繋げる取り組みや、社員間で切磋琢磨する社風づくり、各種マネジメントシステム認証取得など、継続的な品質向上の取り組みを推進しています。

### お客様へのサービス品質向上

#### ● 「お客様の声」による業務改善

お客様から頂戴するご意見・ご要望、苦情や感謝などの「お客様の声」は全社員で共有し、日々の業務改善のきっかけとしています。

特に苦情については業務改善の重要なヒントと捉え、苦情の発生状況と要因の観点から分析を行い、結果を関係部署へ共有することにより、適切な解決策の実施に繋がっています。

さらに、苦情内容は「会社の評判を下げる行為」という認識のもと、苦情の適正評価指標「ダメージポイント」を導入。社内規定やマニュアルの違反により発生した苦情について、発生率ランキングと評価結果を公表し、是正指導を徹底することにより再発防止に取り組んでいます。

お客様の声総数 **3,049件**

苦情 **787件** (前年比▲26件)

感謝 **2,262件** (前年比+1,135件)

#### ● お客様満足度の向上と社員表彰

ALSOKでは、お客様満足度の向上に大きく貢献した社員の行動を半期ごとに表彰しています。表彰制度の導入から3年が経過し、社員のCS意識の高まりが、受賞者数の増加にも現れてきています。

この効果をさらに向上させるため、表彰推薦枠の拡大や適正な評価を行うための基準の見直しなどを進めています。

表彰実績

・19年度	上期	<b>4件</b>	下期	<b>8件</b>
・20年度	上期	<b>8件</b>	下期	<b>10件</b>
・21年度	上期	<b>12件</b>	下期	<b>8件</b>

#### ● QC活動

社員の自主的な活動によって職場の身近な問題を解決し、生産性を向上させるとともに、参画意識を高めること目的として、QC(品質管理)活動を全国の事業所で行っています。

各事業所では毎年1つ以上のQCサークルを組織し、活動の成果を地域単位の予選において発表します。さらに選考を勝ち抜いた全国の事業所によって本社発表会を開催し、優れた取り組みについては社内イントラネットで公開することで、好事例の横展開を図っています。



最優秀サークル賞



発表会の様子

#### ● 業務改善提案制度

業務改善に関する建設的な意見を奨励し、社内の活性化および生産性向上に繋げるため、「業務改善提案制度」を定めています。

実際に社員から提案があったアイデアを採用し、業務で使用する書類の様式を変更したり、運用上のミスが発生しにくく、かつ効率的な方法へ変更するなどの改善が常に行われています。

## 業務技能の向上

### ● 社内競技大会の開催

警報の対応や警備機器の保全対応、電話対応、救命処置など、実務に即した内容を競技化し、グループ全体でサービス品質の向上を図る「ALSOKグループ協働体品質向上競技大会」を毎年開催しています。

12回目の開催となる2021年度は、新型コロナウイルス感染症への各種対策を講じたうえで158名の社員が参加し、日々の業務で磨かれた技術や対応力を競い合いました。



救急救命処置

### ● 安全運転への取り組み

2009年より、業務用自動車またはバイク(二・三輪)の運転に従事する社員に対して、車両の基礎知識や運転技能を習得する「セーフティドライバー認定員制度」を導入し、実技訓練などを通じて安全な車両運行を体得させることで、交通事故の削減を図っています。

また、2021年よりさらなる事故防止を図るため、衝突被害軽減ブレーキやバックセンサーなどの車両安全装備の設置を新車購入時に義務化したほか、交通事故が発生した際には、その原因を主管部署にて分析し、結果を適宜関係者へ周知しています。

さらに、交通事故・違反を起こすことなく業務に従事する社員を走行距離に応じて表彰する「車両無事故無違反運転者表彰制度」の拡充を図り、安全運転へのインセンティブを与えるなど、さまざまな事故削減施策を展開しています。



車両無事故運転者表彰



セーフティドライバー認定試験

## 従業員満足の向上

### ● 従業員満足度の向上

顧客満足と従業員満足は、高品質サービスを提供するうえで重要な関係にあると認識しており、その従業員満足の根底にあるのは、日々の業務における社員を褒める風土であると考えています。

そこでALSOKでは、社員の長所に目を向け、優れた部分を称賛するためGSTカード(Good Service Thanks Card)を導入し、称賛すべき行動に応じて、「お客様カード」「仲間カード」2種類のカードを授与しています。

さらに、授与されたGSTカードの中で最も優れた内容を選出し、各事業所内に掲示することで、皆で称え合う文化の醸成と、賞賛機会の増大に繋がっています。



GSTカード  
(Good Service Thanks Card)

配布総数

**89,784枚** (前年比+7,636枚)

①お客様感謝

**16,438枚**

(単体:3,950枚、グループ:12,488枚)

②仲間感謝

**73,346枚**

(単体:40,899枚、グループ:32,447枚)

### ● 社員への表彰

サービス品質の向上および社員のモチベーション向上を目的として、社員個人を対象とした表彰から事業所単位の表彰まで、さまざまな社内表彰制度を定めています。



ALSOK100  
(優秀社員表彰)  
授賞式の様子

ALSOK100(優秀社員表彰)受賞者

【表彰制度の一例】

- ・ALSOK100(優秀社員表彰)
- ・車両無事故無違反運転者表彰
- ・優秀営業員表彰
- ・優秀隊員表彰
- ・金鷲杯/綜翔杯/村井杯



## 事業活動を通じた社会課題の解決

社会の動向を的確に捉え、警備業で培ったノウハウを活かし、社会やお客様の課題解決に貢献する多面的なサービスを提供しています。

### 安全・安心なまちづくり

#### ● 避難所ソリューション

地震や台風に伴う水害など、さまざまな自然災害の発生リスクを抱える日本。全国の自治体では、避難所を開設して被災者を保護・受け入れられるよう体制を整えています。3密(密接・密集・密閉)状態が発生しやすい避難所において、新型コロナウイルスを含めた感染症をどのように防ぐかが重要な課題となっています。

ALSOKでは、避難支援から、避難者の体温チェックやシステムを活用した行動エリア管理などの運営支援までをワンストップで行う「避難所ソリューション」を提供しています。

さらに、高齢者への避難支援として、高齢者向け見守りサービスであるHOME ALSOKみまもりサポートを活用することにより、自治体は利用者への避難指示から避難経路の確認、行方不明者の位置情報把握、避難完了状況の把握・集計などを行うことができます。



#### ● AIを活用したタウンセキュリティシステムの提供

大阪府のSuitaサステナブル・スマートタウン(SST)では、パナソニック コネクト株式会社のセキュリティシステムとALSOKの警備サービスを掛け合わせ、見守り事象の把握と自動的に継続的な課題抽出・分析を行う、高精度で効率的なタウンセキュリティシステムの実現を目指しています。

「誰もがいつまでも安心して暮らし、誰もがいつまでも安心して訪れることができるまち」の実現に向け、SST内にALSOKの待機所を設置するほか、AI・4K搭載の高性能タウンカメラによる事象の検知、状況に応じた警備員の駆けつけや警察・救急などへの連絡といった連携とサービスの改良を進めています。

これまでパナソニックが取り組んできたFujisawa SST(神奈川県藤沢市)、Tsunashima SST(神奈川県横浜市)、Suita SSTのセキュリティパートナー企業としてALSOKが選定されており、すべてのSSTに参画する唯一の企業となっております。



Suitaサステナブル・スマートタウン

#### ● フードロス削減に貢献する防災備蓄品提供の新形態

企業が地震などの災害に備えて災害備蓄を行うことが一般的となっていますが、消費されることなく賞味期限を迎えた備蓄飲料や食品は、廃棄されることもあり、フードロスとなっていることに加え、廃棄費用が発生する場合があります。

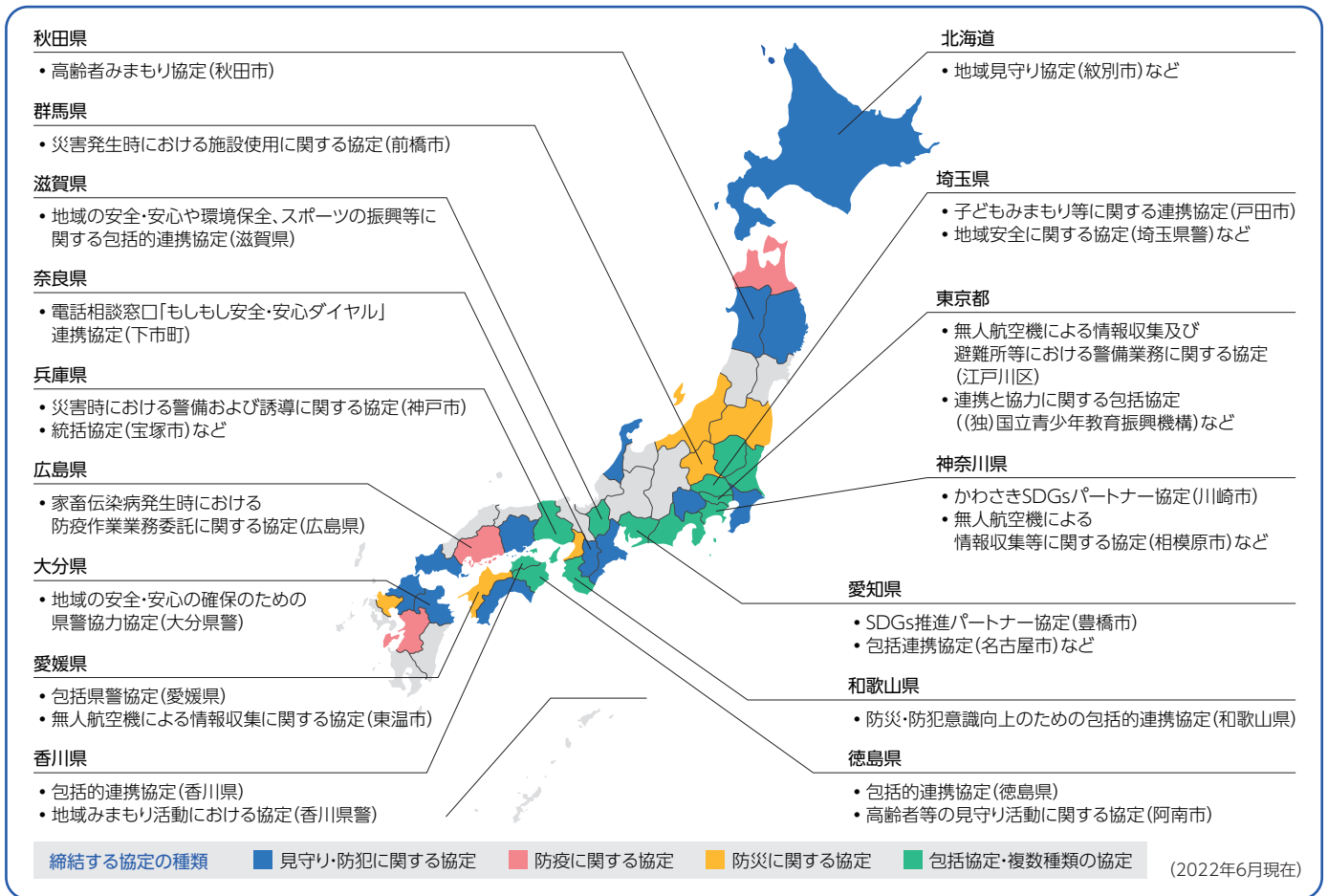
このような社会課題の解決策として、ALSOKでは「社会貢献型災害備蓄品利用サービス」の提供を開始しました。同サービスは、契約期間を4年6か月とした定額料金制です。納品した災害備蓄品は、消費期限を半年間残した時点で新品に置き換えられ、消費期限の迫った備蓄品はフードバンクなどを通じて全国の各種福祉施設や団体に寄贈されます。備蓄品の消費期限管理や買い替え、期限切れ備蓄品の廃棄などの手間・コストがかからず、さらには社会課題に貢献に繋がるサービスです。

## 全国の自治体などとの協定を通じた「安全・安心」への貢献

ALSOKは全国に約3,000カ所の警備拠点を有するネットワークと機動力を活かし、自治体や警察と協定を結ぶことで、地域の安全・安心に貢献する活動を全国で展開しています。

協定内容は、防犯、高齢者や子どもの見守り、防災、防疫など、社会の安全に寄与するものはもちろん、近年では、SDGs達成に向けた活動や次世代を担う青少年の育成に関する活動まで多岐にわたっています。

当社が提供する業務の特性を活かしながら、各地域の抱える課題を解決することで、社会貢献度を一層高めていきます。



※地図上に掲載した協定は、当社が締結する協定の一部の事例です。

### ●【埼玉県戸田市】子ども見守り等に関する連携協定 2021年6月21日締結

戸田市では、「安全な暮らしを守るまち」の実現に向け、通学路を中心とした市内300カ所に「見守り防犯カメラ」を設置し、子どもの位置情報を家族や保護者に通知するサービスを提供しています。

ALSOKは「見守り防犯カメラ」の設置や整備の面からこのサービスの運用をサポートするとともに、市と協定を締結。防犯教室の開催をはじめとした子どもの見守りに加え、地域の安全・安心や高齢者、障がい者支援、災害対策など、さまざまな面から市と相互連携を図り、地域の見守り環境強化に貢献しています。



連携協定締結の様子

### ●【兵庫県神戸市】災害時における警備および誘導に関する協定 2021年11月17日締結

災害発生時における被災者や帰宅困難者の誘導、避難所などの警備、災害時物資の集積・配送拠点の整備、警備員や誘導実施に関する助言などを行います。

また、ターミナル駅である三ノ宮駅周辺地域の帰宅困難者誘導マニュアル(2021年度)の策定も、ALSOKが請け負いました。

## 事業活動を通じた社会課題の解決

### 環境課題への貢献

#### ● カーボンニュートラル実現に向けた商品の提供

政府の掲げる2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、ALSOKでは、空調やLED照明など、省エネ効果の高い設備のリニューアルを通じて、エネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の削減を後押ししています。

また、電気自動車・プラグインハイブリッド車に対応するため、EV充電設備設置への対応も開始し、EV充電インフラの充実にも貢献しています。



ALSOKで取り扱うEV充電設備

#### ● 環境配慮型消火液剤をインドネシアの森林火災現場に配備

インドネシアでは、森林での野焼きの火が地中の泥炭層<sup>でいたんそう</sup>に引火し、地中で延焼が広がる森林火災が社会問題となっています。このような火災は、ひとたび発生すると容易には鎮火しないという特徴がある一方、森林保護の観点から、環境への悪影響を与えるような消火剤を使用すべきでないという課題もありました。

これに対し、ALSOK BASSインドネシアでは、泥炭地の森林経営を行う日系企業に対して、環境配慮型消火液剤を提案しました。現地での実証実験にて、地中への液剤浸透性と消火の有効性、生分解性が高く環境への影響が少ないことなどが確認され、火災現場への配備が進められています。



環境配慮型消火液剤散布の様子



### 感染症対策への貢献

#### ● ロボットを活用したポストコロナの警備

東京都が新設した新型コロナウイルスの無症状者向け宿泊療養施設に警備ロボットREBORG<sup>®</sup>-Zが3台導入されました。REBORG<sup>®</sup>-Zは、対応スタッフの負担軽減および非対面、非接触による感染リスクの低減を目的に導入され、施設内を巡回走行し、監視を行いました。また、ロボット自体に抗菌コーティングを施すとともに、導入後も除菌を適宜行い、感染症対策に貢献いたしました。



警備ロボットREBORG<sup>®</sup>-Z

#### 基本機能

- ① 運営本部と入所者との相互通話
- ② カメラによる監視
- ③ 事前に設定したルートに基づく自動巡回
- ④ マイク機能を活用した、入所者に対する複数言語（日本語・英語・中国語など）でのお知らせ

#### ● 感染性廃棄物の収集運搬でコロナ対策に貢献

新型コロナウイルスへの対応として、病院の稼働率が上昇し、また全国に宿泊療養施設やワクチン接種会場などが設置されたことにより、使用済み注射針やワクチンアンプル、血液や体液が付着した衣類などの感染性廃棄物の量が増大しました。

総合管財では、これらの廃棄物を密閉容器で回収し、処分場まで安全に輸送する業務を行っています。廃棄物を保管するための倉庫を増設し、収集運搬エリアや収集可能な品目を拡大するなど、増大する需要に応えられるよう対応体制の強化に努めています。



感染性廃棄物輸送車両



## 地域に根差した多様なサービス

全国・世界各国に展開するALSOKグループでは、主要業務である警備を軸としながらさまざまな特色あるサービスを提供することで、各地域に寄り添い、地域の抱える課題解決に貢献しています。

### ALSOK山形

#### 車両運行管理業務

山形県小国町が保有する人工透析患者送迎車両4台の運行管理を行っています。町内の利用者宅と近隣市町村病院への運行スケジュール管理や車両の点検・清掃、運転まで対応しています。



### ALSOK静岡

#### 富士山山頂の雑踏警備

山開きを中心とした繁忙シーズンに富士山山頂の富士宮口、御殿場口、その中間地点において、登山者への注意喚起、ご来光のポイント案内、怪我人や呼吸困難者などの一時救命などを行っています。



### 山梨支社

#### ALSOKお墓みまもりサービス

転勤などで遠方に居住している方や高齢でお墓の管理が困難な方に代わり、お墓の清掃や供養を行うサービスを、山梨県内で展開しています。お墓の写真や状況は、メールまたは郵送にて報告しています。



### ALSOKタイ

#### 違法薬物検査サービス

覚せい剤などの薬物使用経験者が人口の約5%を占めるタイでは、薬物購入のために、社員が自社製品や備品を窃盗する事件が少なくありません。この問題に苦慮する取引先日系企業に、薬物使用検査サービスを提供しています。



### ALSOK千葉

#### ジビエ工房

千葉県が抱える、捕獲した有害鳥獣の処分問題を解決するため、ジビエ工房を開設。捕獲した鳥獣を引き取り、解体・加工・販売までを自社施設で一貫して行っています。



### ALSOK京滋

#### 除雪作業

京都府綾部市の常駐警備先工場では、冬期は毎日天気予報を確認して降雪予測があると自宅待機し、深夜の降雪状況により緊急出動してホイールローダーを運転し、警備先社員の出勤前に除雪を行っています。



### 北関東総合警備保障

#### 施設の管理運営(PFI・PPP)

Jリーグ栃木サッカークラブのホームスタジアムである「栃木県グリーンスタジアム」や、疑似体験を通して防災について学べる「栃木県防災館」をはじめ、公共施設の管理運営を担っています。



### ALSOK介護

#### 許認可保育園

0歳から就学前までのお子様を対象とした認可保育園として「こどもの家保育園」を2園(埼玉県志木市)、「たんぼぼ保育園」を2園(千葉県船橋市)運営し、お子様が健康で健やかに成長できる場所を提供しています。



### ALSOK徳島

#### シャトルバス運行業務

徳島県鳴門市の常駐警備先である大塚国際美術館と約1キロ離れた3~4カ所の専用駐車場間を結ぶシャトルバス(2~5台)を随時運行し、来場者の送迎を行っています。



# サステナビリティ・CSRマネジメント

## サステナビリティ・CSR取り組み体制

ALSOKは「信頼される警備サービス」、「社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供」、「人材育成と働きやすい職場づくり」、「積極的なコミュニケーションによる地域社会への貢献」、「地球環境への配慮」の5つのテーマを重要な課題(マテリアリティ)と捉え、社会課題の解決と持続的な企業価値の向上に向けての取り組みを進めています。これからも社会インフラの一翼を担う企業として、これら5つのマテリアリティの解決に尽力していきます。

### 5つのマテリアリティ

#### 1 信頼される 警備サービス

ALSOKの事業の原点は、「お客様に対して最高の商品・サービスを提供すること」にあります。お客様の生命や財産を守る事業を展開する企業として、お客様の信頼に応える高品質な商品・サービスの提供が重要な経営課題と考え、常に品質の向上に取り組んでいます。

#### 2 社会的課題の 解決に貢献する 商品・サービスの提供

ALSOKは社会インフラの一翼を担う企業という認識のもと、社会動向を的確に捉え、警備業などで培ったノウハウを活かして社会やお客様の課題解決に貢献する多面的なサービスを提供しています。

#### 3 人材育成と 働きやすい職場づくり

企業活動の重要な源泉は「人」であり、持続的な企業発展の礎となる社員一人ひとりが、それぞれの能力を最大限発揮し生き生き働けるよう、働き方改革の推進、ダイバーシティへの対応や研修制度の充実などを通じ、最高なパフォーマンスを引き出す環境を構築してまいります。

#### 4 積極的な コミュニケーションによる 地域社会への貢献

ALSOKの基本精神である「ありがとうの心」を形にするため、企業市民として、それぞれの地域社会が抱えるさまざまな課題を解決する活動を積極的に展開し、すべての方が安全・安心に生活できる未来の実現に貢献します。

#### 5 地球環境への配慮

地球環境問題は人類共通の課題であるという認識のもと、環境負荷低減と環境汚染の防止の観点から、気候変動対策、循環型社会構築に向けた貢献や生物多様性の保全などに取り組んでまいります。



## サステナビリティ基本方針

ALSOKグループでは、サステナビリティを巡る課題への対応は基本的な経営課題であるとの認識のもと、お客様と社会の多様な安全・安心ニーズに応えるべく、サステナビリティ基本方針を制定し、持続的な成長を目指し取り組みを進めてまいります。

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| ① 社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供 | ⑥ 人材育成と働きやすい職場づくり |
| ② 倫理と公正取引                 | ⑦ 地球環境の保全         |
| ③ 企業の統治                   | ⑧ 地域社会への貢献        |
| ④ 人権と労働                   | ⑨ 危機管理の徹底         |
| ⑤ 信頼される、強靱な総合安全安心サービス     | ⑩ 経営陣の役割          |



<https://www.alsok.co.jp/company/society/special/>

## 社会的課題への対話とSDGs

重要な社会的課題	目指す姿	主な取り組み	対応するSDGs
<b>E</b> 環境 気候変動対策 生物多様性の保護 資源の有効利用 サプライチェーンの管理	気候変動問題の解決、地球環境保全への貢献	エネルギー使用量、CO <sub>2</sub> 排出量の削減 野生鳥獣への対策 3Rの推進 サプライチェーンマネジメント	6 安全な水とトイレを世界中に 7 再生可能エネルギー 12 つくばない、つかうを減らす、リサイクル 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
<b>S</b> 社会 犯罪、テロなどへの対応 社会インフラの老朽化への対応 労働人口の減少、医療・介護従事者の不足への対応 多様な人材育成 ダイバーシティ、人権の尊重 ワークライフバランス 犯罪被害の抑制 教育機会の創出 復興支援 お客様満足の向上 サービス品質の向上 リスクへの備え	警備業などで培ったノウハウを活かし、安全・安心の実現を通じた社会的課題の解決	AI・IoT×警備 各種監視サービス みまもり、ALSOKの介護 社員教育環境の整備 ダイバーシティの推進 健康経営の取り組み強化 各種防犯セミナーの開催 芸術・文化・スポーツ振興、次世代への支援活動 災害支援、ボランティア活動 CS・ESの向上 サービス品質向上とマネジメントシステムの認証取得 BCP体制の整備	1 貧困をなくそう 2 質の高いエネルギーをすべての人に 3 健康と長寿をすべての人に 4 質の高い教育をすべての人に 5 性別平等をすべての人に 7 再生可能エネルギー 8 豊かで持続可能な雇用と成長をすべての人に 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や地域をつなぐ 11 持続可能な住居と都市づくり 17 パートナーシップで目標を達成しよう
<b>G</b> ガバナンス 腐敗防止 コンプライアンス 透明性の向上	ステークホルダーから信頼される企業グループ	企業統治体制の整備 コーポレートガバナンス・コードへの対応 実効性評価の実施	16 平和と公正な社会をすべての人に



# サステナビリティ・CSRマネジメント

## ■ ステークホルダーエンゲージメント

ALSOKグループの事業活動は、お客様、従業員、取引先、株主・投資家、地域・グローバル社会など、多様なステークホルダーとの関わりの中で進められています。社会的責任の国際規格である「ISO26000」などを参考に、ステークホルダーとのコミュニケーションによって得られたさまざまな要望や期待を真摯に受け止め、事業活動へ反映するとともに、NPO・NGOなど、地域社会の各セクターとの協働を継続的に実施し、より効果的な社会課題への貢献を目指しています。

主なステークホルダー	ALSOKが提供する価値	取り組みの具体例
<b>お客様</b> 法人:548千件 個人:460千件	高品質な商品・サービスの提供を通じた「安全・安心」の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>CS推進による顧客満足の充実</li> <li>品質、安全への取り組み</li> <li>安全・安心サービスの提供</li> <li>ホームページ、SNS等での情報発信 ほか</li> </ul>
<b>従業員</b> 従業員数:38,192人 (単体:12,002人、グループ:26,190人)	企業活動の重要な源泉は「人」であるとの考えのもと、従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮して活き活き働ける環境の提供と能力開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育制度の充実</li> <li>福利厚生制度の充実</li> <li>健康経営の推進</li> <li>内部通報制度の整備 ほか</li> </ul>
<b>株主・投資家</b> 金融機関・法人:57.5%、 外国法人等:23.8%、 個人その他:18.5%	強靱な「総合安全安心サービス業」としての持続的な成長による企業価値向上を通じた株価上昇、株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>株主総会、決算説明会</li> <li>統合報告書・有価証券報告書等の発行</li> <li>事業等のリスク開示</li> <li>投資家ミーティング ほか</li> </ul>
<b>取引先</b> 取引先数:約860社	多様な社会課題の解決に向けて、ALSOKとサプライチェーン全体が相互に取り組むことで、持続可能な成長とともに果たしていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>公正な事業慣行</li> <li>CSR調達</li> <li>サプライチェーンマネジメント</li> <li>情報セキュリティマネジメントシステムの運用 ほか</li> </ul>
<b>地域・グローバル社会</b> 日本全国 世界6カ国・地域	多様化するリスクに対して「安全・安心」を軸とした新たなソリューションを創出し、「安全・安心」な社会の構築に貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯教室、防犯講座の開催</li> <li>芸術・文化・スポーツ振興</li> <li>災害復興・ボランティア支援</li> <li>環境活動、生物多様性の保護 ほか</li> </ul>

※株主構成は自己株式を除く

## ■ リスクへの備え(BCP)

### ● BCP

昨今、日本各地で地震が頻繁に発生しており、今後30年以内に70%の確率で「首都直下地震」の発生が予測されていることから、首都直下地震の発生を想定した総合防災訓練を行いました。

地震の発生から、災害対策本部の設置、各責任者による被災状況の情報収集や社員の安否確認、報告といった一連の流れの訓練を行い、被災事業所およびグループ会社との連携強化を図るとともに、防災意識の醸成とALSOKグループ全体の災害対応力向上を目指しています。

さらに、2021年10月には、VR防災体験車を活用した体験型防災訓練を開催しました。揺れと映像の疑似体験を、今後の災害対策に活かしていきます。



総合防災訓練の様子



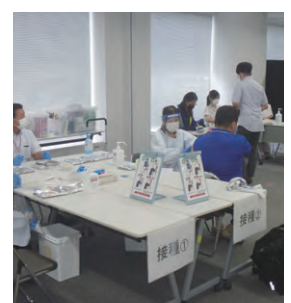
VR防災体験車をを用いた訓練

### ● 感染症対策

ALSOKグループは、社会の安全・安心に関するサービスを行う事業者として、適切なサービス提供を継続する必要があります。

そのため、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に係る国や自治体の方針に基づき、事業継続の体制を整えています。本社内に設置された「対策本部」を中心とした適切な情報収集と発信、検温やマスクの着用、手指消毒といった基本的な感染対策の徹底だけでなく、ALSOKグループであるエムビックらいふが提供するPCR検査での陰性判定を職場復帰条件に追加することや、職域接種などのワクチン接種推奨、社内会議のオンライン化などを通して、安定した各種サービスの提供に努めています。

また、特に介護施設などにおいては、感染拡大防止のための入館規制を行うとともに、施設内清掃などの感染対策を徹底しています。



職域接種の様子

# サプライチェーンマネジメント

ALSOKグループは、変化する時代と社会の要請に応え、人権・労働、汚職・腐敗、地球環境保全など、さまざまな課題解決の一助となるべく取り組んできました。しかし、この取り組みはALSOKグループの努力だけで完結するものではなく、取引先をはじめ、すべてのステークホルダーの皆さまのご理解・ご協力のもと実現するものだと考えています。

こうした考えに基づき、ALSOKグループでは、取引先との連携をより一層密にしながら、調達や機器の設計・開発などに取り組んでいきます。

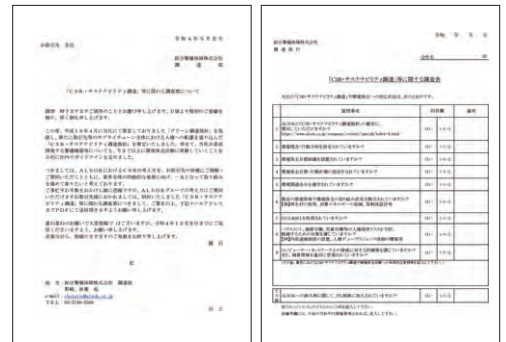
## ● CSR・サステナビリティ調達

取引先を含めたサプライチェーン全体で地球環境保全や人権・労働、汚職・腐敗などのさまざまな課題解決に取り組むため、2022年、「CSR・サステナビリティ調達指針」を新たに制定しました。

取引先と協力し資源の有効活用、廃棄物の発生抑制など、地球環境保全を積極的に進めるとともに、人権に関する国際規範を踏まえ、サプライチェーン全体の人権を尊重した取り組みを進めています。



「CSR・サステナビリティ調達指針」はこちら



調達先に配布している当社の指針と調査表

## ● 環境配慮設計

警備機器などの委託開発においても、環境保全に貢献していくことを目的として、社内ガイドラインとして「環境配慮設計に関わるガイドライン」を策定しました。本ガイドラインに基づき、取引先と協力して、製品を設計・開発する際の環境配慮設計の検討、納入製品の有害化学物質の使用制限、長寿命化、梱包材の再資源化などに取り組み、より一層、環境保全に貢献していきます。



ALSOKが提供する警備機器

## ● お取引先専用ホットラインの設置

サプライヤーとの取引において、自浄作用、社会的信頼、企業価値を維持・向上させるとともに、当社と取引先がともに持続的発展を遂げることを目的として、2021年12月に「ALSOKお取引先ホットライン」を開設しました。

ALSOKグループの組織または個人による違法行為、不正行為、反倫理行為およびそれらのおそれのある行為が発生した際、取引先が、不利益な扱いを受けずに通報することが可能な仕組みを構築しています。また、通報を受けた場合は、速やかに問題の是正・未然防止措置を図っています。

## ■ 各種マネジメントシステムの認証取得

事業の中断が多くステークホルダーに影響をもたらすことを認識し、ALSOKでは大規模災害や事故などの有事に備え、事業継続計画(BCP)をベースとした事業継続マネジメントシステム(ISO22301)の認証を取得することで、取り組みの強化を図っています。

また、事業継続の分野だけでなくとどまらずPDCAサイクルによる業務改善を図るべく、品質マネジメントシステム(ISO9001)や、情報セキュリティマネジメントシステム(ISO27001)、環境マネジメントシステム(ISO14001)も認証を取得しています。

現在、ALSOKグループ全体で、ISO9001を57社、27001を20社、14001を40社が取得しています。

## 人材価値の向上

持続的な企業発展の礎となる人材がスキルや専門性を獲得し、人材価値を向上していけるよう、研修制度の充実や資格取得の推進、積極的なキャリア支援など、人材育成の強化に取り組んでいます。

### 教育・訓練の充実

#### ● 初任研修

ALSOKグループでは、企業活動の最も重要な源泉は人材であるという基本的な考え方にに基づき、「お客様と社会の安全・安心の確保のために最善を尽くす」という経営理念を実現するためにさまざまな研修を行っています。「経営理念」「経営指針」「行動規範」などの基本的な精神の理解・浸透を図り、あらゆる業務運営の場面に実践されるよう社員の能力を開発する研修体系を構築し、ALSOKを取り巻く環境の変化や社会のニーズを的確に読み取り、各種会社施策を実行できる人材の育成に努めています。

特に、ALSOKの将来を担う新入社員に対しては、新たに警備員資格を取得し、さらに業務に必要となる共通の知識や技能、倫理観などを学んでもらうため、研修所における「初任研修」で訓練を36時間50分行うほか、それぞれの配属部署でのOJTを職種別に体系化された計画に基づき実施するなど、充実した教育プログラムを用意しています。



初任研修の様子

#### ● 研修教育機会の拡大

2018年度に導入したeラーニングシステムの範囲を2021年度から拡大しました。専門知識の習得が中心となる研修を集合研修からeラーニング研修へ変更することで、コロナ禍で集合研修が実施できない状況でも、教育機会を継続して提供することが可能となり

ました。

● 1人当たりの平均研修受講時間 **12.3時間**  
● 本社企画研修の開催回数 **385回**



eラーニングシステムの活用

### 専門性の深化

#### ● 資格取得の推進

業務運営にあたって業種ごとにさまざまな資格検定が必要となるALSOKでは、公的資格の取得率向上を目指しており、資格取得費用の補助など、さまざまな支援で社員の挑戦を後押ししています。

また、社員の高難易度資格取得に対する動機づけを図るとともに、優秀な人材を確保するため、会社が定める資格を保有し特定の業務に従事する社員に対して資格手当を支給する制度を新設しました。

【手当支給対象となる資格の一例】

- ・技術士
- ・工事担任者総合通信
- ・電気工事士
- ・ネットワークスペシャリスト
- ・電気工事施工管理技士
- ・電気通信工事施工管理技士
- ・消防設備士甲種第4類
- ・第1級総合無線通信士 など 37種

#### ● 公募制度

ALSOKグループでは、組織の活性化と社員力向上を促進するため、中央省庁や他企業、グループ内での人事交流を積極的に進めています。また、日本大使館・領事館の警備を担当する警備対策分野の要員を社内公募し、グローバルに活躍できる人材の育成にも努めているほか、基幹事業である警備業以外にも、介護事業などのあらゆる事業領域において公募制度を取り入れ、事業の中核となる人材の発掘・育成にも努めています。

さらに、人口の減少、技術革新、グローバル化など、社会環境の激しい変化の中で持続的発展を遂げていくためには、経営に関する体系化された高度な知識や技能を習得した経営人材の育成が急務であるという認識から、仕事を続けながら高度な経営知識を学ぶことができる専門職大学院に社員を派遣しています。



## 働きやすい職場環境づくり

社員一人ひとりが働きがいを感じながら、それぞれの能力を最大限に発揮して生き生き働けるよう、働き方改革の推進やダイバーシティへの対応など、職場環境の整備に取り組んでいます。

### 働き方改革・ワークライフバランス

#### ● 働き方改善に向けた制度の整備

ALSOKでは、働き手がそれぞれの能力を最大限に発揮できる環境を構築するべく、働きやすい職場づくりに向けた制度の充実に取り組んでいます。

制度	内容
・プラチナホリデー	全社員が9連休以上の長期休暇を取得することを奨励(2018年～)
・パールホリデー	四半期ごとに休暇の取得予定を事前聴取することにより、年休を取得しやすい環境を醸成(2021年～)
・ES懇談会	社員からの問題提起や意見を会社が汲み上げることが目的に、社員(管理職を除く)と人事担当役員などによる懇談会を、毎年、すべての事業所を対象に開催(2008年～)
・社員アンケート	社員の職場に対する認識、モラル、価値観などを把握し、これに基づいた施策を推進することを目的に、2020年からは全社員を対象として実施(1999年～)
・ALSOKサポートライン	社員の心の健康の維持や安全な職場環境整備への取り組みとして、相談窓口を設置。社員の家族も利用可能(2007年～)

- 有給休暇取得率 **62.8%**(単体)
- ES懇談会 **22回**(単体、22年3月期)
- ALSOKサポートライン 利用会社数 **41社** 利用実績 **295件**(本体およびグループ会社)

### 女性活躍推進

#### ● 女性活躍推進における課題と目標

社員が個々の能力を十分に発揮し活躍できる職場環境を目指し、ALSOKでは、キャリアアップと多様な働き方を実現できる環境整備の両面で、女性の活躍推進に取り組んでいます。

2021年4月からの3年間で、女性管理職比率を2020年度比で5%増加させる目標を設定しました。この実現に向け、女性社員向けに女性管理職との対話会を開催し、ロールモデルの経験に接する機会を設けるなど、さまざまな取り組みを行ってまいります。また、ALSOKでは採用時にすべての職種で男女均等な取り扱いを行っていますが、防犯上の配慮から運用部門への女性の配置を避け、後方支援業務に従事させる傾向がありました。現在ではこうした無意識の思い込みから脱却し、従来男性中心であった職域にも、希望する女性社員を配置しています。

また、ジェンダーに関わらず、社員のワークライフバランス推進に向けた制度を整備するとともに、出産・育児・介護などと仕事の両立ができるよう、在宅勤務などを活用した多様な働き方に関する検討を進め、2021年4月からの3年間で社員の平均勤続年数を2020年度比で5%増加させる目標に取り組んでいます。



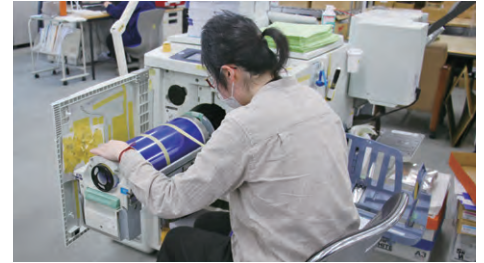
- 育児休業からの復職率(単体)  
男性**100%** 女性**94.1%**
- 男女別育休取得者数(単体)  
男性**13人** 女性**35人**

## 働きやすい職場環境づくり

### ダイバーシティ&インクルージョン

#### ● 障がい者を有する社員の活躍

障がい者雇用を促進し、自立と社会参加を支援するため、2010年に特例子会社「ALSOKビジネスサポート株式会社」を設立しました。障がいの有無に関わらず、社員一人ひとりが活き活きと誇りを持って働くことができる職場づくりに努めており、社員は、ALSOKグループで使用される名刺や商品パンフレットなどの印刷物制作、契約書や装備品の保管、資料発送やALSOKが受託した業務に使用する備品や端末のメンテナンスなど、幅広い分野で活躍しています。



ALSOKビジネスサポートによる印刷物制作の様子

#### ● シニア世代の活躍

定年退職した社員を再雇用する「ALSOKイーグルス株式会社」を2011年に設立し、退職したシニア世代が豊富な経験を活かして働くことができる場を提供しています。

ALSOK本社内のコンビニ運営からALSOKオリジナルグッズ、ノベルティの制作・販売、警報機器の定期点検、修理受付・リユース業務など幅広い分野でシニア社員が活躍しています。

#### ● 多様性の尊重

東南アジア6カ国に展開する現地法人においては、日常的な宗教の慣行（イスラム教徒の礼拝など）を尊重し、社内に礼拝スペースを確保するとともに、勤務シフトを調整して礼拝の時間を確保するなどの取り組みを行っています。

また、一部のグループ会社においては、本人の自認の性を尊重した採用を行っています。採用後は、周囲の社員の理解を促し、本人が希望する勤務環境を整えています。



会社発展を祈願するALSOKインディア駐在員とスタッフ

#### ● 海外事業展開と現地社員への教育

海外のグループ会社においては、現地採用社員のさらなる活躍のため、育成制度の整備に取り組んでいます。その一環として、当社の経営理念や歴史などをまとめた世界共通の資料を作成し、入社後に行う「初任研修」などで活用しています。

これらの資料は、「ありがとうの心」、「武士の精神」といったALSOKの基本精神を異文化圏で浸透させるために、各国の言語に翻訳することに加え、当地の文化に合わせた表現に変えるなどの最適化を行いました。この活動を通じ、現地採用社員のALSOKグループへの帰属意識向上および「マニュアルをなぜ遵守するのか」という基本的な考え方への理解を深めています。



ALSOKタイの社員教育の様子

### 健康経営の推進

スポーツ施設やホテルなどを優待料金で利用できる福利厚生プログラムや、万が一、長期にわたって仕事を休む場合の支えとなる保険制度を備えているほか、心身の健康に関する相談窓口の設置や、健康保険組合との協働による健康イベントの開催など、社員とその家族が健康で充実した生活を送ることができるよう支援しています。

これらの取り組みが評価され、警備業界で唯一、6年連続で「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定されました。



## 地域社会貢献活動

ALSOKの基本精神である「ありがとうの心」を体現し、地域社会の「安全・安心」に対する要請や期待に応えるため、本業を活かした地域貢献活動を行っています。

さらに、経営理念である「社会の安全・安心の確保」という言葉には、年齢や性別、国籍や宗教、障がいの有無に関係なく、すべての方が安全・安心に生活できる未来を守るという意味が含まれると考えています。こうした考えに基づき、事業活動だけでなくボランティアや寄付活動に参加し、さまざまな社会的課題の解決に寄与するとともに、スポーツ・文化振興、次世代を担う子どもたちに対する教育機会の提供などにも取り組んでいます。

### ● ALSOKあんしん教室®

2004年に神奈川県内でスタートした「ALSOKあんしん教室®」は、2005年から対象地域を全国に拡大し、コロナ禍においても感染対策に配慮しながら活動を続けてきました。

一人でも多くの子どもを犯罪被害から守るため、時代に合わせて授業内容をアップデートさせながら、全国で活動を行っています。2022年3月末現在、累計実施回数は54,439回、参加児童数は1,701,753名にのびります。



ALSOKあんしん教室®

### ● 子どもへの教育機会の提供

2022年3月に、独立行政法人国立青少年教育振興機構と連携と協力に関する包括協定を締結しました。機構の取り組みと当社の経営理念に基づく取り組みの親和性が非常に高いことから、相互に連携し、社会や青少年の課題解決に向けて取り組んでいくことを目的としています。

青少年への命の大切さの意識涵養、食品ロス削減の観点を踏まえた防災備蓄食品の活用による子ども食堂への支援といった分野において連携し、さまざまな分野の専門家も交えながら、子どもたちに体験の場と機会を提供していきます。



包括協定締結式の様子

### ● ほっとらいふ講座、女性向け防犯セミナー

高齢者支援サービスや介護事業を手がける企業としてこれまでに培ってきたノウハウを活かし、振り込め詐欺や侵入窃盗から高齢の方を守るための「ALSOKほっとライフ講座」を展開しています。

また、女性を狙った犯罪による被害から女性を守るための出張セミナー「ALSOK女性向け防犯セミナー」も展開しており、どちらも地域の経験豊かなALSOK社員が講師として活躍しています。

### ● 企業献血の定期開催

ALSOKグループでは輸血を求める方のお役に立ちたいという考えのもと、本社ビルをはじめ、複数の地域で企業献血の開催に協力しています。2021年度にはALSOK稲城ビルでも初めて開催しました。

また、2021年10月にはこれまでの取り組みを評価いただき、日本赤十字社東京支部より感謝状を授与されました。



ALSOK稲城ビルにおける献血の開催



## 災害支援・寄付

### ● ALSOKありがとう運動財団の活動

「ALSOKありがとう運動財団」は、当社の基本精神の一つである「ありがとうの心」を体現することを目的に、賛同するALSOKグループの役員や社員、その他有志からの寄付で運営されています。

集まった寄付は、社会福祉法人などへの活動助成金や福祉車両の寄贈、被災地への災害義援金といった形で、社会福祉・災害救済支援などの活動をサポートしています。

### ● 寄付活動

ウクライナおよびその周辺地域への人道支援のため、弊社およびグループ会社の役員、社員有志による「ALSOKウクライナ支援金」として、合計9,273,500円を2022年4月に国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ寄付いたしました。

### ● 福祉車両寄贈台数

累計 **134**台  
(2022年3月期)



## 地球環境への配慮

地球環境問題は人類共通の課題であるという認識のもと、CO<sub>2</sub>排出量などの削減目標を掲げ、環境汚染の防止と環境負荷低減に努めるとともに、気候変動問題および自然環境保護活動に取り組んでいます。

### カーボンニュートラルに向けた取り組み

#### ● CO<sub>2</sub>排出量削減目標

2022年度は、ALSOKグループ全体におけるCO<sub>2</sub>排出量の売上高原単位を前年度比5.7%削減することを短期目標としました。また、中期目標についても見直しを行い、2025年度にCO<sub>2</sub>排出量(売上高原単位)を2013年度比59%削減することを目標としました。

#### ● 環境負荷低減への取り組み

CO<sub>2</sub>排出量削減目標の達成に向けて、照明や空調設備のリニューアルを推進しているほか、節電やエコドライブなどの取り組みも行っています。

ガードマンが車両で現場に駆け付けるといった業務の特性上、車両の使用機会が多いため、環境に配慮した電気自動車やハイブリッド車への積極的な買い替えを行い、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。

また、2022年より都市圏などの密集エリアにおけるガードマンの駆けつけに使用する三輪バイクを、「電動三輪バイク」へ置き換える取り組みを開始しました。さらに、燃費性能などを分析し、東京都以外の都市への導入も検討していきます。2022年度は東京都内に約40台導入し、5年後には約200台まで拡大させる予定です。



電動バイク ジャイロキャンピーe

#### ● シェアサイクル「PULCLE」の導入

静岡支社では、環境面から社会課題に取り組みSDGs達成に貢献することを目指して、2021年に静岡市のシェアサイクル事業「PULCLE(パルクル)」のステーション設置を開始しました。PULCLEとは、静岡市内の複数のサイクルポートに設置された、いつでも、どこかのポートでも貸出・返却できる電動アシスト自転車です。PULCLEは、主に市内における近距離での営業活動に活用されており、営業員・総務員からも「ステーションへの乗り捨てが可能のため、駅周辺での行動範囲が広がり非常に便利」と好評です。さらに自転車の活用とエコドライブなどの努力により、営業車の台数削減や1台当たりの燃料使用量削減が促進され、環境負荷軽減への貢献度を向上させることができています。



静岡支社に設置されたPULCLEステーション

#### ● 太陽光発電の導入

ALSOK群馬では、①電力購入量削減によるコストカット、②CO<sub>2</sub>排出量の削減、③停電時に電力を確保できる環境整備(BCP対策)を目的として、2020年10月に本社屋上に太陽光発電設備を導入しました。その結果、導入後1年間の電力購入量は、前年同期より19.2%削減され、コストとCO<sub>2</sub>排出量を大幅に抑制することができました。



ALSOK群馬本社屋上の太陽光パネル

### ISO14001の全社取得に向けて

中期経営計画(GD2025)において、環境マネジメントのさらなる強化としてISO14001のグループ全社取得を目指しています。現在、42社が取得しており、2023年3月期までに全社取得予定です。

## 気候変動への対応(TCFD提言に基づく開示)



2022年2月、ALSOKは金融安定理事会により設置された気候関連財務情報開示タスクフォース(以下「TCFD」)の提言に賛同しました。TCFDが提言する開示フレームワークに沿って気候変動関連リスク・機会分析を行い、その結果をコーポレート上で開示しており、今後も分析の深掘りと開示内容の充実を図っていきます。

### ガバナンス

「環境委員会」および「環境マネジメント部会」を組織し、環境対応の計画立案、実施、レビューを行い、取組状況を取締役に報告しています。

### 戦略

2℃シナリオおよび4℃シナリオを想定した気候変動リスクと機会を特定し、リスクへの対応策とALSOKが提供可能なサービスの検討を行いました(分析結果詳細は、Webページ「<https://www.alsok.co.jp/company/society/tcf/>」をご覧ください)。

### リスク管理

「環境マネジメント部会」で特定・評価されたリスクに対して、適宜、対応策の検討・進捗管理を行っており、その内容は「環境委員会」に報告、審議しています。また、特にインパクトの大きいリスクについては、「リスク管理委員会」に連携し、共同で管理する体制を敷いています。

### 指標と目標

指標:温室効果ガス(GHG)排出量(Scope1・2)および売上高原単位の2つを指標として定めています。  
目標:2022年に「2025年度のCO<sub>2</sub>排出量(Scope1・2)を売上高原単位の59%削減(2013年度比)」という目標を設定しました。

## 生物多様性の保護

有害鳥獣による森林・農作物被害は年々拡大しており、生態系などにも影響を及ぼしています。ALSOK千葉では、捕獲等事業の認定を取得し、有害鳥獣捕獲代行業務を行っています。さらに、2020年にはジビエ工房を開設し、捕獲したイノシシなどを幅広く引き取り解体、加工、販売までを一貫して行っています。加工した食肉は、連携する地域の飲食店で販売するほか、冷凍品のネット販売も開始し、フードロス削減にも貢献しています。



ALSOK千葉 ジビエ工房

### ● 植樹活動

2015年に、会社の創立50周年記念事業として、千葉で始まったALSOKの植樹活動。2021年からは新たに「(公財)鎮守の森のプロジェクト」に参加し、植樹活動に取り組んでいます。南相馬市で開催された植樹祭では、社員が参加し市民の方々と苗木を植えました。

このほかにも、防潮堤の植樹を行うなど、環境保全だけでなく、防災林の再生による被災地の「安全・安心」に貢献することで、ALSOKらしい社会貢献活動を推進しています。



南相馬市での植樹の様子

## 循環型社会の実現に向けて

### ● 開発・調達過程における環境配慮

循環型社会の構築により一層貢献するため、新たに制定した「CSR・サステナビリティ調達指針」に則り、警報機器の同梱発送による梱包材削減を推進するなど、取引先と協力して取り組んでいます。

また、RoHS指令への準拠や、省エネルギー化、省資源化、リユース・リサイクル、長寿命化などを意識した設計について規定した社内ガイドラインとして「環境配慮設計に関わるガイドライン」を策定し、警備機器の設計・開発段階から環境配慮の観点を取り入れる仕組みを構築しています。

### ● 警報機器リユースの促進

当社では、警報機器のリユースを行うことにより、廃棄物および製造に係る資源使用量の削減に取り組んでいます。

また、2022年8月にリユース業務の業容を拡大するため、現在、神奈川県にあるリペアセンターの増床を行ったほか、大阪地区へリペアセンターを新設いたしました。

# コーポレート・ガバナンス

## 基本的な考え方と体制

当社は、経営理念を「我が社は『ありがとうの心』と『武士の精神』をもって社業を推進し、お客様と社会の安全・安心の確保のために最善を尽くす」と定めるとともに、「社会・公共への貢献」を経営指針のひとつに掲げ、ステークホルダーの皆様から信頼される企業グループであり続けるために、経営の執行と監督の分離、迅速な意思決定、企業倫理の確立、経営の透明性の確保等によるコーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

### ALSOKのコーポレート・ガバナンスの変遷

年		2003						2022
取締役会	員数	2007年 → 2009年 → 2013年 → 2015年 → 2016年 → 2022年 7名 → 8名 → 7名 → 8名 → 10名 → 12名						
	社外	2009年 → 2016年 → 2017年 → 2022年 1名 → 2名 → 3名 → 4名						
監査役会	員数	2008年 → 2009年 → 2022年 4名 → 5名 → 4名						
	社外	2003年 → 2006年 → 2022年 3名 → 2名 → 3名						

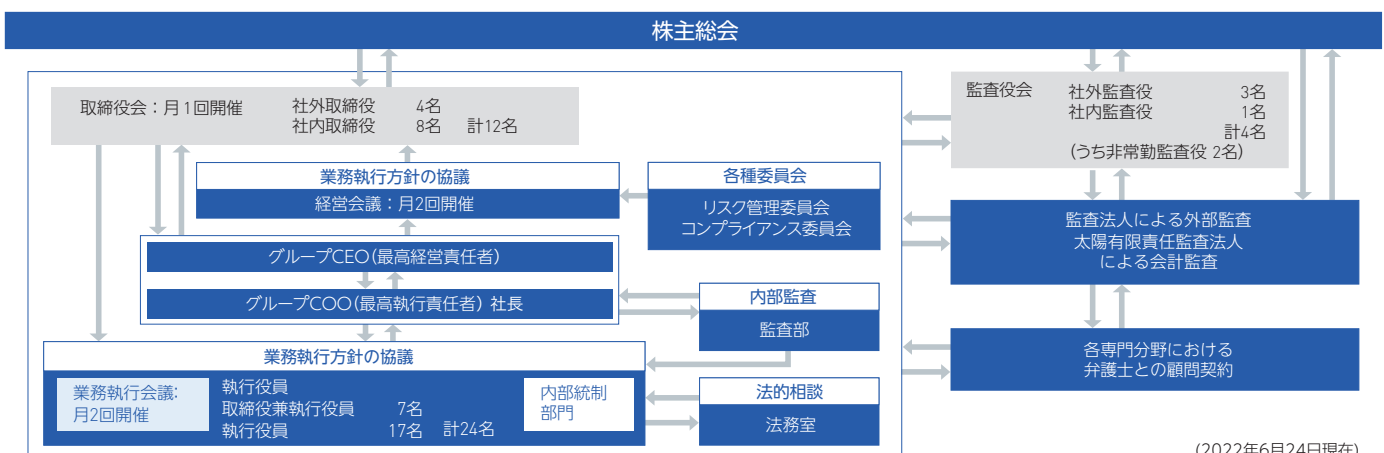
### 規則改訂

2002年 6月	執行役員制度 導入
2002年 11月	コンプライアンス規則 制定
2002年 12月	リスク管理規則 制定
2004年 4月	ALSOKホットライン 設置
2004年 8月	情報セキュリティ基本方針 制定
2004年 12月	個人情報保護方針 制定
2006年 5月	内部統制システムに関する基本方針 制定
2009年 7月	情報資産管理規則 制定
2016年 4月	ALSOKホットライン社外窓口 設置
2021年 12月	ALSOKお取引先ホットライン 開設

## 企業統治の体制の概要および当該企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であり、後述する体制の下で、監査役による実効的かつ充実した監査が行われており、経営陣に対するガバナンスが有効に機能しているものと認識しています。

本報告書提出日現在の取締役は12名（うち社外取締役4名）、監査役は4名（うち社外監査役3名）で構成されています。取締役会は原則として月1回開催し、経営の基本方針および業務執行に関する重要事項を決定するとともに、取締役および執行役員職務の執行の監督を行っております。さらに、代表取締役グループCEOを議長とする経営会議を原則として月2回開催し、取締役会に付議すべき案件を決定するとともに、取締役会の決定に基づく業務執行方針の協議を行っております。監査役会は原則として月1回開催し、監査に関する重要な事項について報告を受け協議を行い、または決議を行っております。また、監査役1名は経営会議に出席し、経営執行状況の適切な監視を行っております。





## ■ 社外役員の選任理由と活動状況

社外取締役および社外監査役については、当社において、客観的・中立的な立場から、経営陣を監視・監督する機能を担っていただくことを想定しています。

社外取締役は、社外監査役とともに当社の取締役会に出席し、出席した取締役会において適宜適切な発言を行っています。また、社外取締役は、社外監査役とともに事前に各業務主管部長等から取締役会で予定されている事項の概要説明を受けるなど実効的な経営の監視に努めています。さらに、社外監査役は、他の監査役と同様に支社および子会社への往査を実施するとともに、監査部および監査法人と定期的に情報交換、意見交換を行っており、これらにより、社外取締役による監督、監査役監査、内部監査および会計監査との相互の連携を図っています。

これらの監督または監査と内部統制部門との関係は次のとおりです。

社外取締役は、取締役会への参加を通じ、内部統制部門などにおける他の取締役の業務執行状況に対し、独立した立場から監督を行っています。

社外監査役は、他の監査役と同様に内部統制部門に対する業務監査および会計監査の実施、各種資料の閲覧を通じて、内部統制部門における業務の適法性の評価を実施しています。当社は、東京証券取引所に対して、社外取締役4名および社外監査役3名を独立役員として届け出しています。

### 社外取締役の選任理由

氏名	選任理由	取締役会への出席状況 (2021年度)
末続 博友	長年にわたり大手鉄鋼メーカーにおける役員として培った豊富な経験および見識ならびに高い能力を有しており、経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、当社グループのコーポレート・ガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、引き続き社外取締役に選任しました。	14回／14回
池永 肇恵	長年にわたり男女共同参画や地方自治等の行政に携わった豊富な経験を有するとともに、大学教授を務めるなどの高い見識と能力を有しており、経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、当社グループのコーポレート・ガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、引き続き社外取締役に選任しました。	11回／11回 (2021年6月就任以降)
三島 正彦	長年にわたり大手総合重機メーカーの経営者として培った豊富な経験および見識ならびに高い能力を有しており、経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、当社グループのコーポレート・ガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、新たに社外取締役に選任しました。	— (2022年6月就任)
岩崎 賢二	長年にわたり大手損害保険会社等における経営者として培った豊富な経験および見識ならびに高い能力を有しており、経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、当社グループのコーポレート・ガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、新たに社外取締役に選任しました。	— (2022年6月就任)

## ■ 「コーポレートガバナンス・コード」への対応

当社は、企業統治に関する指針として東京証券取引所が策定した「コーポレートガバナンス・コード」の諸原則に則り、社内の組織体制などの点検・見直しをきめ細かく行っています。また、「コーポレートガバナンス・コード」への対応などを記載した「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」を、東京証券取引所に毎年提出しており、当該報告書を同取引所および当社のホームページに掲載しています。

今後とも、当社では、コーポレートガバナンス・コードの改訂等も踏まえ、ガバナンス体制の強化について検討を継続していきます。

## コーポレート・ガバナンス

### 実効性評価について

取締役会の実効性の評価にあたっては、全取締役および全監査役を対象として、取締役会の実効性に関するアンケートを実施し、必要に応じて個別インタビューを実施しています。それらを通じて寄せられた意見を踏まえ、取締役会の実効性の向上に努めております。

#### 実効性評価の過程で提示された主な意見と対応

##### 意見

##### 対応

中長期の成長に向けた骨太の議論、業務の選択と集中や領域拡大の議論もすべき。

中長期的な戦略や計画に対する進捗のフォローアップ、人的資本への投資、サステナビリティの取り組みなどについての議論の場をさらに確保できるよう検討します。

社外役員の当社事業・組織の実情理解の場を一層増やすことが重要ではないか。

新任取締役向けの講座を継続するとともに、役員等への経営環境を踏まえた教育内容の拡大、介護を含めた現場施策をはじめ、社外取締役および社外監査役への情報提供等、一層の充実を図ります。

変化の激しい時代において、経営戦略・計画の検討、進捗状況についての議論が不足しているように感じられる。

経営戦略・計画の検討、その進捗状況等について取締役会の議論がさらに活発となるべく、対応を検討します。

### 取締役会の体制およびスキルマトリックス

取締役会の構成および各役員の専門性と経験は次のとおりです。

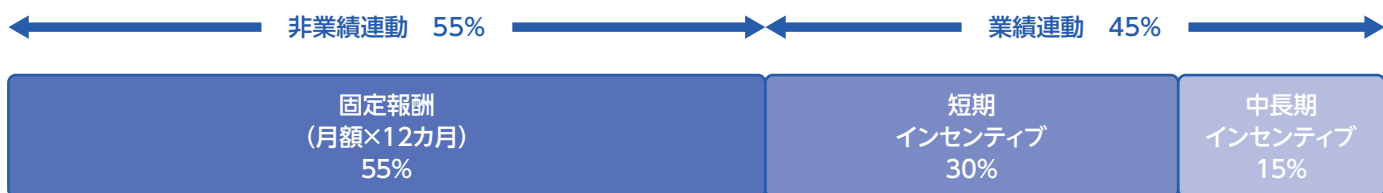
氏名	地位	企業経営 (サステナビリティ含む)	財務・会計	法務・ コンプライアンス	IT・ デジタル	グローバル	営業・ マーケティング	人材 マネジメント	業界知見 (警備・設備・介護)
村井 豪	代表取締役 グループCEO CTO(最高技術責任者)	●		●	●		●	●	●
栢木 伊久二	代表取締役 グループCOO 社長執行役員	●		●			●	●	●
鈴木 基久	取締役	●		●		●		●	●
岸本 孝治	取締役	●	●		●				
熊谷 敬	取締役	●		●	●				●
重見 一秀	取締役	●	●				●		
百武 尚樹	取締役	●		●			●	●	●
小松 裕	取締役	●					●		●
末続 博友	取締役	●	●		●		●		
池永 肇恵	取締役			●				●	
三島 正彦	取締役	●		●		●	●		
岩崎 賢二	取締役	●	●	●			●	●	

## ■ 役員の報酬等の額に関する方針の内容および決定方法

当社の取締役報酬については、総額400百万円、監査役の報酬については総額120百万円を限度額としています。また、当社取締役の報酬は、役職および社外取締役、それ以外の取締役の別により定められている定額部分と、一定の基準に基づき各取締役の職務執行に対する業績評価を行い算定する業績連動部分から構成されています。監査役の報酬は定額であり、その具体的な金額は監査役会で取り決めた基準に従って決定しています。

### (業績連動報酬と業績連動報酬以外の報酬の支給割合の決定に関する方針)

当社取締役(社外取締役を除く。)の報酬につきましては、毎年6月に支給される事前確定届出給与(いわゆる賞与)が業績連動報酬に該当し、支給割合は、会社業績支給率および個人業績支給率がいずれも100%の場合、年間総支給額の45%(短期インセンティブ:30%、中長期インセンティブ:15%)となります。また、定額である月額報酬が業績連動報酬以外の報酬に該当し、支給割合は、会社業績支給率および個人業績支給率がいずれも100%の場合、年間総支給額の55%となります。



### (当該業績連動報酬に係る指標、当該指標を選択した理由および当該業績連動報酬の額の決定方法)

業績連動報酬である事前確定届出給与の算定に当たっては、短期インセンティブについては、連結営業利益を加工した基準指標(連結営業利益+持分法投資利益+連結賞与)から会社業績支給率を算定し、中長期インセンティブについては、その基準指標の3年間の年平均成長率をもとに会社業績支給率を算定します。さらに、個人別に設定した目標の達成度合いによって個人業績支給率を決定します。そのうえで、それぞれの支給率を基準額に乗じることで、支給額を最終的に決定しています。

## ■ 情報開示とIR



当社は、ディスクロージャー・ポリシーを定め、積極的かつ公正・迅速な情報開示に努めています。また、IRサイトを通じて、ステークホルダーごとに必要としている情報がわかりやすく入手できます。さらに、海外機関投資家にも国内警備業界とALSOKグループの成長戦略に対する理解を深めていただけるよう、英文IRサイトに、英文の決算短信・有価証券報告書などを掲載しています。

当社IRサイト <https://www.alsok.co.jp/ir/>



# 取締役、監査役および執行役員

(2022年7月末現在)

## 取締役



代表取締役  
**村井 豪**  
グループCEO  
(最高経営責任者)  
兼  
CTO(最高技術責任者)




代表取締役  
(社長執行役員)  
**栢木 伊久二**  
グループCOO  
(最高執行責任者)  
ALSOKカンパニー長  
東日本担当  
営業本部長  
東日本営業担当

- 1999.7 当社入社
- 2007.6 ホームマーケット営業部長
- 2010.4 執行役員就任、第一地域本部長
- 2011.2 総合管理担当
- 2011.3 日本ファシリオ備出向、代表取締役社長就任(2014年3月退任)
- 2014.4 常務執行役員就任、営業本部副本部長 営業企画・管理担当、地域金融営業担当
- 2016.4 人事総括担当、企業倫理担当
- 2016.6 取締役常務執行役員就任
- 2018.4 総務・広報担当、コンプライアンス担当、リスク管理担当、情報資産管理担当  
東京オリンピック・パラリンピック推進本部長
- 2018.5 中日本担当、営業本部副本部長 中日本営業担当
- 2019.4 取締役専務執行役員就任、東京オリンピック・パラリンピック推進本部推進担当
- 2020.4 統括カンパニー担当
- 2022.4 開発技術等総括担当
- 2022.6 代表取締役就任(現任)、グループCEO就任(現任)、CTO就任(現任)  
(主要な兼職)
- 2019.6 一般社団法人全国警備業協会副会長就任(現任)
- 2021.12 総合商事(株)代表取締役就任(現任)
- 2022.6 一般社団法人東京都警備業協会会長就任(現任)

- 1982.4 当社入社
- 2011.4 第四地域本部長
- 2012.4 執行役員就任
- 2014.4 運用副総括担当、警送構造改革担当
- 2015.4 常務執行役員就任、運用総括担当
- 2017.6 取締役常務執行役員就任
- 2018.4 代表取締役専務執行役員就任、ALSOKカンパニー長(現任)  
東日本担当(現任)、営業本部副本部長 法人担当
- 2019.4 代表取締役副社長就任、副社長執行役員就任、営業本部長(現任)  
法人担当、東日本営業担当(現任)
- 2021.4 第六地域本部長
- 2022.6 代表取締役就任(現任)、グループCOO就任(現任)、  
社長執行役員就任(現任)



取締役(常務執行役員)  
**鈴木 基久**  
総務・広報担当  
コンプライアンス担当  
リスク管理担当  
情報資産管理担当  
統括カンパニー担当  
海外事業担当  
海外事業本部長



取締役(常務執行役員)  
**岸本 孝治**  
経理担当  
内部統制担当  
調達担当

- 2015.1 警察庁交通局長就任(2016年1月退官)
- 2016.4 当社常務執行役員就任、総務・広報担当、調達担当、運用副総括担当  
HOME ALSOK担当、コンプライアンス担当、リスク管理担当  
情報資産管理担当、営業本部副本部長
- 2018.4 運用総括担当、警送構造改革担当  
東京オリンピック・パラリンピック推進本部副本部長
- 2019.4 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長
- 2019.6 取締役常務執行役員就任(現任)
- 2022.6 総務・広報担当(現任)、コンプライアンス担当(現任)  
リスク管理担当(現任)、情報資産管理担当(現任)、統括カンパニー担当(現任)  
海外事業担当(現任)、海外事業本部長(現任)

- 1985.11 当社入社
- 2012.10 経理部長
- 2016.4 執行役員就任、経理副担当
- 2018.4 常務執行役員就任、経理担当(現任)、内部統制担当(現任)
- 2019.4 調達担当(現任)
- 2020.6 取締役常務執行役員就任(現任)



- 2014.7 復興庁統括官(2016年6月退官)
- 2016.10 当社執行役員就任、統括カンパニー副担当、地域統括副担当  
 開発技術等副総括担当、営業本部副本部長、営業推進副担当、法人副担当
- 2017.4 常務執行役員就任、介護事業担当(現任)、統括カンパニー担当  
 地域統括担当、営業本部副本部長、営業推進副担当
- 2018.4 営業本部副本部長 HOME ALSOK担当
- 2020.4 営業本部副本部長(現任)  
 (株)らいふホールディングス 代表取締役社長就任(現任)  
 (株)らいふ代表取締役社長就任(現任)  
 (株)エムビックらいふ代表取締役社長就任(現任)
- 2022.4 ALSOK介護(株)代表取締役社長就任(現任)
- 2022.6 取締役常務執行役員就任(現任)



- 2009.4 (株)みずほコーポレート銀行(現(株)みずほ銀行)  
 大阪営業第二部長(2012年4月退職)
- 2011.5 当社地域統括管理部長
- 2013.4 グループ統括部長
- 2015.4 経営企画部長
- 2017.4 執行役員就任、経営企画副担当、戦略事業副担当
- 2019.4 常務執行役員就任、経営企画担当(現任)、戦略事業担当(現任)
- 2022.6 取締役常務執行役員就任(現任)



- 1989.4 当社入社
- 2016.4 ALSOKあんしんケアサポート(株)出向  
 代表取締役社長就任(2017年3月退任)
- 2017.4 人事部長
- 2019.4 執行役員就任、人事担当
- 2022.4 常務執行役員就任、人事総括副担当
- 2022.6 取締役常務執行役員就任(現任)、人事総括担当(現任)  
 企業倫理担当(現任)



- 1981.3 当社入社
- 2008.4 法人営業第一部担当部長
- 2014.10 北海道総合警備保障(株)出向 代表取締役社長就任
- 2020.4 執行役員就任  
 ALSOK北海道(株)代表取締役社長就任
- 2022.4 常務執行役員就任  
 ALSOK北海道(株)代表取締役会長就任
- 2022.6 取締役常務執行役員就任(現任)  
 西日本担当(現任)  
 2025年日本国際博覧会担当(総括)(現任)  
 営業本部副本部長 西日本営業担当(現任)  
 第二地域本部長(現任)  
 ALSOK近畿(株)代表取締役会長兼社長就任(現任)  
 ALSOK大阪(株)代表取締役会長就任(現任)

# 取締役、監査役および執行役員

(2022年7月末現在)

## 取締役(社外)



取締役(社外)

**末続 博友**

- 2009.4 新日本製鐵(株)(現日本製鉄(株))執行役員就任(2012年6月退任)
- 2012.6 同社監査役就任(2016年6月退任)
- 2016.6 新日鐵住金(株)(現日本製鉄(株))顧問就任(2019年6月退任)
- 2020.6 新日本電工(株)顧問就任(2021年6月退任)
- 2020.6 当社取締役就任(現任)



取締役(社外)

**池永 肇恵**

- 1987.4 経済企画庁入庁
- 2010.9 内閣府大臣官房政策評価広報課長
- 2012.4 法政大学大学院政策創造研究科教授
- 2014.4 内閣府参事官
- 2014.9 内閣府男女共同参画局総務課長
- 2016.1 滋賀県副知事就任(2018年7月退任)
- 2018.7 内閣府男女共同参画局長就任(2020年8月退職)
- 2021.6 当社取締役就任(現任)
- (主要な兼職)
- 2021.6 清水建設(株)社外監査役就任(現任)
- 2022.7 独立行政法人国立病院機構理事(現任)



取締役(社外)

**三島 正彦**

- 2016.4 三菱重工業(株)執行役員就任
- 2018.10 同社常務執行役員就任
- 2019.6 同社代表取締役常務執行役員就任
- 2021.6 同社常務執行役員就任(2021年9月退任)
- 2021.10 同社顧問就任(現任)
- 2022.6 当社取締役就任(現任)



取締役(社外)

**岩崎 賢二**

- 2009.6 東京海上日動火災保険(株)執行役員就任
- 2010.6 同社常務取締役就任
- 2014.4 同社専務取締役就任
- 2017.4 同社取締役副社長就任(2018年3月退任)
- 東京海上ホールディングス(株)副社長執行役員就任
- 2017.6 東京海上ホールディングス(株)取締役副社長就任(2018年6月退任)
- 2018.6 一般社団法人日本損害保険協会専務理事就任(2022年6月退任)
- 2022.6 当社取締役就任(現任)
- (主要な兼職)
- 2022.6 HMSホールディングス(株)代表取締役社長就任(現任)
- 2022.7 (株)第一成和事務所社外監査役(現任)

## 執行役員

常務執行役員

**吉田 浩儀**

運用総括担当  
警送構造改革担当  
2025年日本国際博覧会担当(涉外)

常務執行役員

**小野 誠司**

営業本部副本部長  
法人担当  
営業企画・管理担当  
営業推進担当

常務執行役員

**高橋 賢**

中日本担当  
営業本部副本部長  
FM担当  
HOME ALSOK担当  
中日本営業担当

常務執行役員

**熊崎 善夫**

第一地域本部長  
営業本部副本部長  
首都圏担当

執行役員

**円谷 哲也**

総務副担当  
総務部長

執行役員

**宮島 裕**

経営企画副担当  
経営企画部長

執行役員

**菊川 雅裕**

戦略事業副担当  
戦略事業部長

執行役員

**齋藤 涉**

開発技術等  
総括副担当



## 監査役



常勤監査役

望月 寿一郎

- 1982.4 当社入社
- 2012.8 セキュリティサービス第一部長
- 2014.4 茨城総合警備保障(株)(現ALSOK茨城(株)) 出向  
代表取締役社長就任(2020年3月退任)
- 2020.4 第六地域本部長
- 2021.4 第七地域本部長
- 2022.6 常勤監査役就任(現任)



常勤監査役(社外)

中野 慎一郎

- 2008.6 農林中央金庫統合リスク管理部長
- 2012.6 同企画管理部長
- 2014.6 同常務理事就任(2019年3月退任)
- 農林中金バリューインベストメンツ(株)取締役就任(2018年3月退任)
- 農中信託銀行(株)取締役就任(2019年3月退任)
- 協同住宅ローン(株)監査役就任(2019年6月退任)
- 2019.4 農林中央金庫常任参与就任(2019年6月退任)
- 2019.6 当社常勤監査役就任(現任)



監査役(社外)

長沢 美智子

- 1984.4 弁護士登録
- 2007.4 学習院大学法科大学院教授就任(2013年3月退任)
- 2012.4 第二東京弁護士会監事就任(2013年3月退任)
- 2013.3 (株)大塚家具社外取締役就任(2019年3月退任) ※2017年3月より監査等委員
- 2018.7 国土交通省国立研究開発法人建築研究所監事就任(現任)
- 2020.4 日本弁護士連合会監事就任(2021年3月退任)
- 2020.6 当社監査役就任(現任)
- 2020.7 日本弁護士連合会財務委員会副委員長就任(2022年6月退任)  
(主要な兼職)
- 2008.1 東京丸の内法律事務所パートナー就任(現任)
- 2019.6 SBプレイヤーズ(株)社外取締役就任(現任)
- 2020.6 双日(株)社外監査役就任(現任)



監査役(社外)

中川 能亨

- 1990.9 シンガポール松下無線機器(株)取締役CFO就任(1996年5月退任)
- 2001.1 中国華録・松下AVC有限公司総会計士就任(2004年1月退任)
- 2009.4 パナソニック(株)(現パナソニックホールディングス(株)) 執行役員就任
- 2011.6 同社常務取締役就任(2014年6月退任)
- 2014.4 三洋電機(株)代表取締役社長就任(2017年3月退任)
- 2017.4 パナソニック(株)(現パナソニックホールディングス(株)) 顧問就任(2018年3月退任)
- 2018.4 ハードロック工業(株)特別顧問就任(現任)
- 2020.8 (株)魚国総本社顧問就任(現任)
- 2021.6 当社監査役就任(現任)  
(主要な兼職)
- 2020.6 (株)浅沼組社外監査役就任(現任)

- |                              |   |   |  |                                 |                                 |                                 |                                 |   |
|------------------------------|---|---|--|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|
| 執行役員<br><b>桑原 英治</b><br>研究担当 | 執行役員<br><b>米田 聖</b><br>営業推進副担当<br>法人副担当 | 執行役員<br><b>有田 朋行</b><br>法人副担当<br>法人営業第一部長 | 執行役員<br><b>林 新一郎</b><br>金融担当<br>営業企画・管理<br>副担当 | 執行役員<br><b>小野 裕之</b><br>第三地域本部長 | 執行役員<br><b>近岡 雅之</b><br>第四地域本部長 | 執行役員<br><b>柿本 健一</b><br>第五地域本部長 | 執行役員<br><b>竹田 憲吾</b><br>第九地域本部長 | 執行役員<br><b>野村 茂樹</b><br>常駐(東京)担当<br>ALSOK常駐警備(株)<br>代表取締役社長 |
|------------------------------|---|---|--|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|

## 財務レビュー

### 2021年度(2022年3月期)の振り返り

ALSOKグループは、国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務である社会の安全・安心に関するサービスを行う事業者として、十分な感染防止策を講じつつ適切かつ継続的にサービスを提供し、東京2020大会警備の中心的役割を果たすとともに、ワクチン接種会場などの警備等コロナ感染症への対応に貢献してまいりました。中期経営計画「Grand Design 2025」(中計)に掲げた「お客様と社会の安全・安心を支える強靱な総合安全安心サービス業」を目指して、リスクが多様化する中で拡大するお客様と社会の安全・安心ニーズに応えるべく、警備・設備・介護などの多様なサービス機能を組み合わせた新たなサービスの提供に取り組んでいます。

こうした中、2021年度の売上高は、489,092百万円(前年同期比4.1%増)と、12期連続増収となりました。営業利益は42,865百万円(前年同期比15.3%増)、経常利益は44,796百万円(前年同期比14.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は28,964百万円(前年同期比15.8%増)と、10期連続の増益となりました。また経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標として、売上高経常利益率とROE(自己資本利益率)を重視しています。中期経営計画「Grand Design 2025」においては、両指標とも10.0%以上を目標として掲げ、2021年度は、売上高経常利益率9.2%、ROE10.0%となりました。ALSOKグループは、M&Aの活用などによりセキュリティ事業

を強化するとともに、セキュリティ事業と親和性の高い総合管理・防災事業や介護等高齢者生活支援事業を拡大し、リスクが多様化する社会の中で、拡大する安全・安心ニーズに的確に応えることに注力しています。

### 財政状態

2021年度末の資産総額は488,278百万円(前年同期末比1.4%増)、うち流動資産は233,872百万円(前年同期末比2.7%増)、固定資産は254,405百万円(前年同期末比0.2%増)となりました。負債総額は160,768百万円(前年同期末比9.2%減)、うち流動負債は90,384百万円(前年同期末比12.9%減)、固定負債は70,383百万円(前年同期末比3.9%減)となりました。

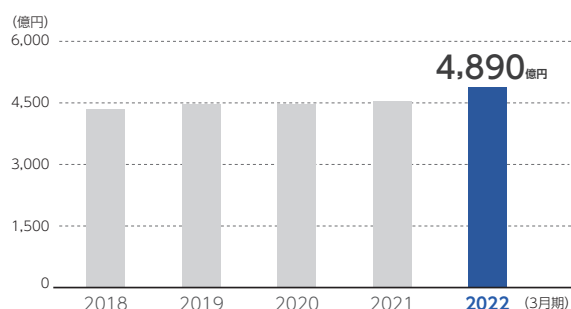
純資産総額は327,509百万円(前年同期末比7.6%増)となりました。

### 財務規律に関する基本的な考え方

中期経営計画「Grand Design 2025」では、中期的な財務目標として、ROE10%以上を想定しています。ROEの向上に向けては、配当性向30%を目安に安定配当を維持しつつ、中期的に連結売上高経常利益率を10%以上まで高めることを目標に収益性を拡大することが基本的な方針です。こうした中、ALSOKグループの最近5年度末における自己資本比率は安

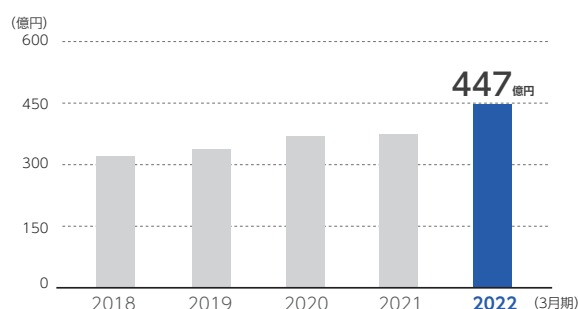
### 売上高

4,890億円 前期比 4.1%増 ↑



### 経常利益

447億円 前期比 14.2%増 ↑



定的に推移しており、株主と債権者双方にバランスよく配慮し、財務規律の維持に努めた結果と考えています。

## ■ 成長投資に向けた考え方 (設備投資・研究開発)

設備投資は、警備業務を中心とした事業の拡大への対応と能力の向上を図るため、当連結会計年度において有形固定資産ならびに無形固定資産へ総額16,280百万円の設備投資を実施しました。その主な内訳は、機械警備用機器6,824百万円、建物および構築物321百万円、器具および備品1,483百万円、ソフトウェア2,561百万円となっています。

研究開発は、収益性の向上に貢献することを目的とし、多様化する市場ニーズを捉え、かつ市場競争力のある技術および商品の開発を推進することを基本方針としています。2021年度における研究開発費は総額565百万円であり、主にセキュリティ事業に係るものです。また、当社の研究開発部門は、研究や開発に該当しない調査・企画・知的財産管理・品質管理等の活動についても研究開発と一体として行っており、研究開発費にこうした活動に係る費用を加えた総額は1,401百万円です。

ALSOKでは、リスクが多様化する社会の中で、拡大する安全・安心ニーズに応えるべく、「少子高齢化による人手不足」、「増加する自然災害」、「身近な犯罪の多様化」、「巧妙化するサイバー攻撃」、「感染症などの環境変化」などに対処するため

研究を行っています。また、オープンイノベーションを推進するとともに先端技術について産学官連携を進め、刻々と変化する社会情勢に対応していきます。

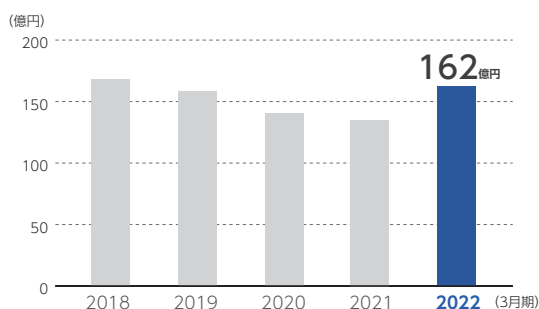
## ■ 株主還元の方針

ALSOKでは、株主に対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、内部留保の充実を図りながら、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としています。内部留保資金は、将来の成長・発展に必要な研究開発費、情報システムの高度化や新規事業のための設備投資等に充当し、業績の一層の向上に努めます。またALSOKは中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本的な方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会です。

2021年度の配当については、当期の業績、来期以降の業績見通し、設備投資計画等を総合的に勘案し、中間配当(1株当たり38円00銭)と合わせ、1株当たり年82円00銭、連結配当性向は28.7%となりました。

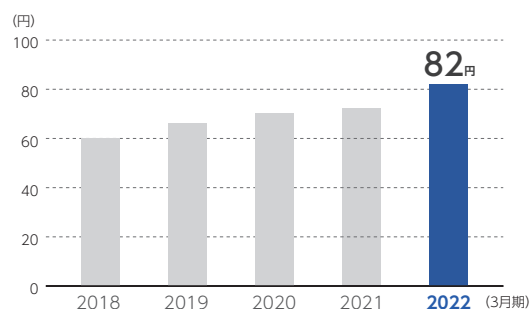
### 設備投資額

162億円 前期比 19.3%増 ↑



### 1株当たりの配当金

82円 前期比 10円増 ↑





## 11年サマリー

3月31日に終了した会計年度	2012	2013	2014	2015
<b>損益状況(百万円)</b>				
売上高	304,723	315,564	328,209	365,749
売上原価	232,812	242,410	248,900	276,116
売上総利益	71,910	73,153	79,308	89,632
販売費および一般管理費	61,100	61,363	60,375	66,660
営業利益	10,810	11,790	18,932	22,971
経常利益	12,558	14,741	20,745	24,700
親会社株主に帰属する当期純利益	3,903	8,574	10,955	13,534
<b>収益性</b>				
売上高総利益率(%)	23.6	23.2	24.2	24.5
売上高営業利益率(%)	3.5	3.7	5.8	6.3
売上高経常利益率(%)	4.1	4.7	6.3	6.8
総資産経常利益率(ROA)(%)	4.4	5.1	6.5	6.9
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	2.7	5.7	7.0	7.8
EV/EBITDA(倍)*	1.4	2.7	5.3	10.1
<b>安定性</b>				
自己資本比率(%)	51.3	52.1	46.2	48.4
時価ベースの自己資本比率(%)	34.8	46.5	63.5	110.1
有利子負債残高(百万円)	39,270	37,455	71,666	73,699
インタレストカバレッジレシオ(倍)	34.1	36.9	36.4	28.5
<b>効率性(回)</b>				
総資産回転率	1.1	1.1	1.0	1.0
自己資本回転率	2.1	2.1	2.1	2.1
有形固定資産回転率	5.2	5.4	5.2	5.4
<b>1株当たり指標</b>				
1株当たり純資産(BPS)(円)	1,446.93	1,536.30	1,574.74	1,800.15
1株当たり当期純利益(EPS)(円)	38.83	85.30	108.99	134.65
株価純資産倍率(PBR)(倍)	0.7	0.9	1.4	2.3
株価収益率(PER)(倍)	25.3	16.1	19.9	30.4
1株当たり配当金(円)	20	25	30	38
連結配当性向(%)	51.5	29.3	27.5	28.2
期末株価(円)	982	1,373	2,164	4,095
<b>その他情報</b>				
従業員数(連結)(人)	27,868	28,054	28,091	31,221
平均勤続年数(単体)(年)	13.3	13.8	14.4	14.9
育児休職からの復職率(男女)(単体)(%)	93.3	97.6	92.4	96.6
CO <sub>2</sub> 排出量(グループ売上高原単位)(t-CO <sub>2</sub> )*	—	—	0.312	0.265
CO <sub>2</sub> 排出量(グループ)(t-CO <sub>2</sub> )*	—	—	102,313	96,962
<b>M&amp;Aの変遷</b>				
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALSOK双栄(株)</li> <li>・日本ビル・メンテナンス(株)</li> <li>(現ALSOKファミリティアーズ(株))</li> <li>・(有)あんでいけあ</li> <li>(現ALSOK介護(株))</li> <li>・(株)HCM(現ALSOK介護(株))</li> <li>・ALSOKあんしん</li> <li>ケアサポート(株)</li> </ul>

\* EV/EBITDA倍率の算出式は下記のとおりです。  
EV = 時価総額 + 有利子負債 - 手元流動性(現金および預金 + 有価証券)  
EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

\* 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号2018年2月)に基づき  
2017年度以降の財務情報についても変更しています。

\* 2021年3月期よりCO<sub>2</sub>排出量の集計方法、集計範囲を変更しました。

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
381,818	413,343	435,982	443,535	460,118	469,920	<b>489,092</b>
282,880	310,704	330,493	334,197	345,097	352,811	<b>363,511</b>
98,937	102,639	105,489	109,338	115,020	117,108	<b>125,581</b>
69,901	74,217	75,378	77,057	78,224	79,926	<b>82,715</b>
29,036	28,422	30,111	32,280	36,795	37,182	<b>42,865</b>
30,667	30,309	31,913	33,881	38,880	39,212	<b>44,796</b>
17,868	18,330	19,344	22,269	24,163	25,014	<b>28,964</b>
25.9	24.8	24.2	24.7	25.0	24.9	<b>25.7</b>
7.6	6.9	6.9	7.3	8.0	7.9	<b>8.8</b>
8.0	7.3	7.3	7.6	8.5	8.3	<b>9.2</b>
8.5	8.2	8.2	8.4	9.3	8.6	<b>9.2</b>
9.9	9.7	9.3	9.9	10.1	9.6	<b>10.0</b>
13.4	8.7	10.7	8.7	8.6	8.7	<b>5.3</b>
51.9	51.0	55.0	56.8	57.3	57.6	<b>61.5</b>
175.4	108.2	134.3	119.0	124.2	110.0	<b>82.9</b>
47,210	65,599	52,658	47,412	51,264	69,983	<b>54,260</b>
30.1	54.2	25.8	18.1	26.2	27.3	<b>22.3</b>
1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	<b>1.0</b>
2.1	2.2	2.1	2.0	1.9	1.8	<b>1.7</b>
5.3	5.1	4.9	5.0	5.2	4.9	<b>4.9</b>
1,805.09	1,956.25	2,155.74	2,302.38	2,425.02	2,741.27	<b>2,964.85</b>
177.77	182.37	191.93	219.98	238.69	247.09	<b>286.11</b>
3.4	2.1	2.4	2.1	2.2	1.9	<b>1.3</b>
34.3	22.8	27.5	21.9	22.0	21.2	<b>14.0</b>
50	55	60	66	70	72	<b>82</b>
28.1	30.2	31.3	30.0	29.3	29.1	<b>28.7</b>
6,100	4,155	5,260	4,820	5,260	5,230	<b>4,000</b>
31,446	36,693	37,519	37,417	37,902	38,444	<b>38,192</b>
15.4	15.9	16.4	16.8	17.2	17.4	<b>17.6</b>
93.7	91.3	98.3	98.1	98.2	98.1	<b>95.2</b>
0.242	0.219	0.206	0.191	0.177	0.181	<b>0.174</b>
92,453	90,622	89,735	84,655	81,286	85,501	<b>85,146</b>
	・(株)ウイズネット (現ALSOK介護(株)) ・PT. ALSOK BASS Indonesia Security Services ・ALSOK Vietnam Security Services Joint Stock Company ・ALSOK昇日 セキュリティサービス(株)	・ALSOK-TW東日本(株) ・ALSOK関東 デリバリー(株)	・ALSOK Myanmar Security Services Co.,Ltd. ・(株)ケアプラス ・総合管財(株) ・(株)ヘルス・サポート (現総合管財(株))	・京阪神セキュリティ サービス(株)	・(株)らいつ ホールディングス	

# 売上高内訳／契約件数の推移

## 業務別売上高

(億円)

3月31日に終了した会計年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
セキュリティ事業										
機械警備業務	1,471	1,518	1,604	1,671	1,705	1,740	1,755	1,756	1,767	1,772
常駐警備業務	738	772	884	939	1,004	1,100	1,119	1,169	1,131	1,288
警備輸送業務	508	510	523	546	561	602	622	656	656	678
総合管理・防災事業	406	448	583	549	578	619	629	692	681	674
介護事業 <sup>*1</sup>	—	—	—	75	249	257	265	281	403	416
その他	30	32	62	35	34	39	42	46	58	60
合計	3,155	3,282	3,657	3,818	4,133	4,359	4,435	4,601	4,699	4,890

\*1 「介護事業」の売上高は、2017年3月期より開示セグメントとしているため、2016年3月期以降の売上表示としています。  
2015年3月期以前の当該売上高については、「その他」の売上高に含まれています。

## 業種別売上高

(億円)

3月31日に終了した会計年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
事業法人	1,865	1,967	2,249	2,343	2,449	2,636	2,712	2,829	2,782	2,929
金融機関	898	905	913	923	917	920	914	932	920	885
公共法人	220	228	264	262	297	315	312	322	353	414
個人 <sup>*2</sup>	171	180	229	289	468	490	497	516	641	661
合計	3,155	3,282	3,657	3,818	4,133	4,359	4,435	4,601	4,699	4,890

\*2 「HOME ALSOK アパート・マンションプラン」や「HOME ALSOK みまもりサポート<sup>®</sup>」は、ご契約先が「法人」や「自治体」であっても「個人」に含めています。

## 契約件数

(件)

3月31日に終了した会計年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
セキュリティ事業										
機械警備業務等	630,977	677,672	803,601	854,083	888,955	922,928	949,858	973,066	990,155	1,009,259
法人向け	422,676	440,028	463,053	478,925	493,035	508,374	520,942	533,733	540,410	548,580
個人向け	208,301	237,644	340,548	375,158	395,920	414,554	428,916	439,333	449,745	460,679 <sup>*4</sup>
常駐警備業務	3,020	3,227	3,597	3,871	4,213	4,357	4,485	4,468	4,371	4,584
警備輸送業務	51,698	55,420	59,134	62,146	65,755	72,454	75,652	77,791	79,289	79,582
総合管理・防災事業	54,903	63,004	73,898	81,908	89,670	98,044	104,254	109,697	113,880	123,504
介護事業 <sup>*3</sup>	—	—	—	12,804	22,628	21,234	25,364	24,976	27,503	27,118
その他	11,989	13,725	22,477	18,217	22,285	25,263	25,896	29,382	29,693	34,778
合計	752,587	813,048	962,707	1,033,029	1,093,506	1,144,280	1,185,509	1,219,380	1,244,891	1,278,825

\*3 「介護事業」の契約件数は、2017年3月期より開示セグメントとしているため、2016年3月期以降の件数表示としています。  
2015年3月期以前の当該件数については、「その他」の契約件数に含まれています。

\*4 集合住宅向けの対象戸数を含めると約125万戸となります。

## 主な社外評価

外部機関よりESGの観点から社会的責任を果たしていると認められ、投資指標や指数の構成銘柄に選定されています。

 <b>FTSE4Good</b> 社会的責任投資指標 「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に 15年連続で選定されています。	 <b>FTSE Blossom Japan</b> ESG投資指数 「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に 6年連続で選定されています。	<b>2022 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数</b> ESG投資指数 「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」の 構成銘柄に6年連続で選定されています。
---	---	---

・ALSOKのMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるALSOKへの後援、保証、販売促進ではありません。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標もしくはサービスマークです。

・FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここにALSOKが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



# 会社情報 / 株式情報

(2022年3月31日現在)

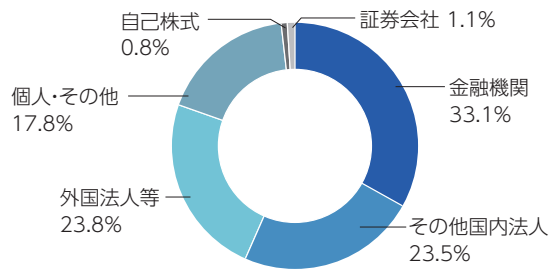
## 会社情報

社名	総合警備保障株式会社
本社所在地	〒107-8511 東京都港区元赤坂1-6-6
設立年月日	1965年7月16日
資本金	18,675百万円
決算期	3月31日
従業員数	38,192名(連結) 12,002名(単体)
事業拠点	本社・64支社・37支店・255営業所 連結子会社74社(海外子会社10社含む) 持分法適用会社14社 (海外持分法適用会社3社含む)

## 株式情報

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式総数	102,040,042株 (自己株式 782,282株を含む。)
株主数	11,135名
上場証券取引所	東京証券取引所(プライム市場)
証券コード	2331
1単元の株式の数	100株

## 所有者別株式分布状況



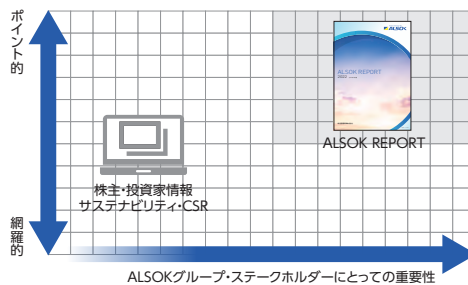
## 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,218	12.06
総合商事株式会社	7,388	7.29
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,352	5.28
埼玉機器株式会社	5,283	5.21
かまくら商事株式会社	4,150	4.09
総合警備保障従業員持株会	3,558	3.51
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口		
再信託受託者株式会社日本カストディ銀行	2,961	2.92
きずな商事株式会社	2,950	2.91
村井 温	2,885	2.84
株式会社SMBC信託銀行 (株)三井住友銀行退職給付信託口)	2,735	2.70

注:持株比率は、自己株式(782,282株)を控除して計算しています。

## 編集方針

「ALSOKレポート2022」は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様とのさらなる対話のきっかけになることを目指し、業績および事業概況や戦略などの財務情報と、CSR活動などの非財務情報を「統合レポート」としてまとめたものです。経済的観点からの経営状況を開示するとともに、ALSOKグループが持続的な価値創造による成長を図るための考え方や、中長期の経営・事業戦略・成長を支える事業構造に加え、ESGへの取り組みと国際社会全体で取り組むSDGsの課題解決につながる、数々のCSR活動をご説明しています。なお、本レポートでご紹介しきれなかったデータやより詳細な企業活動の情報については、Webサイトに掲載しています。



## 報告メディアについて

冊子とWebそれぞれのメディアの特性を活かしたレポートニングを行っています。冊子版では重要性の高い、または読者からの関心の高い項目に絞って、読みやすくかつ分かりやすく紹介しています。またWeb版では財務情報やCSRなどの取り組み全体を網羅的に掲載しています。

## 参考にしたガイドライン

- 参考にしたガイドライン
  - ・IIRC(国際統合報告評議会)「国際統合報告フレームワーク」
  - ・経済産業省「価値協創ガイダンス」
  - ・日本規格協会「ISO26000:2010 社会的責任に関する手引」
  - ・GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
  - ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」



## 株主・投資家情報

経営方針、財務・業績、IRライブラリ、株式情報についての詳細は、Webサイトをご覧ください。

<https://www.alsok.co.jp/ir/>



## CSR・社会貢献活動

ISO26000に沿って、本業を通じた形で実践している活動の詳細は、Webサイトをご覧ください。

<https://www.alsok.co.jp/company/society/>





## 総合警備保障株式会社

〒107-8511 東京都港区元赤坂1-6-6

URL <https://www.alsok.co.jp/>

**IR室** TEL.03-3423-2331  
FAX.03-3470-1565

**CSR推進室** TEL.03-3470-1972  
FAX.03-5411-1636

・総合ガードシステム、オルムシステム、タクルス、MMK、あんしん教室、REBORG(リボーク)、ALSOKスタッフ等連携システム、HOME ALSOKみまもりサポート、HOME ALSOKレディースサポートは、総合警備保障株式会社の登録商標です。

UD  
FONT

